

六稜會報

NO. 13 1980・8・15

昭和55年8月15日発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六稜同窓会
〒532 淀川区新北野2丁目15-13
電話 06(303) 5661 代表
振替 大阪68025
編集 山本次郎・清藤正巳
印刷 藤江フォート印刷
電話 0729(87) 8254

本年度総会は

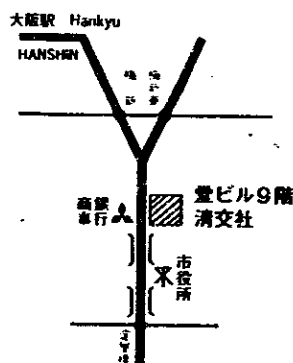
体育の日の前夜 10月9日(木)午後6時から

堂ビル9階 清交社で (北区西天満2-6-8 電話361-0833)

卓話 「石油事情について」

丸善石油社長 本田早苗氏(昭和10年卒・48期)

会費 3,000円 (但し、卒業10年以内-S46卒以降と
70才以上-S3卒以前の方1,500円)



クラブ親善試合は

11月3日(文化の日)母校で!!

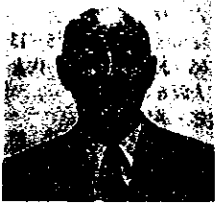
参加クラブ	野 球	P2	運 動 場
	バスケット(男・女)	A10	体育館2階
	テニス(男・女)	A9	テニスコート
	囲碁大会	A11	旧図書館2階

毎日新聞社提供



遠き日の講義偲ぶや同窓会

川井義通先生



明治42年11月生れ。
昭和3年北野中学校卒業。
広島高校、京大経済学部、京大
大学院副手を経て朝日新聞社へ。
一時、朝日新聞社を出て教職、
最高裁長官秘書官など6年勤務。
昭和27年朝日新聞社に再入社し、
現在社主・取締役。

六稜同窓会とともに

上野淳一 (41期・昭3)

わが六稜同窓会の河崎邦夫会長がこのたび引退されましたため、その後任として不肖私が会長の大役の御指名を受けることになりました。

河崎前会長は故寺尾威夫会長急逝の後を受け母校創立百周年以後、今日に至るまで東洋紡績の要職にありながら愛情と熱意を傾けられて大きな発展に寄与されました。私はその御功績に対して深甚の感謝と敬意を表する次第でございます。

小学校から中学校・高等学校を経て大学を卒業して社会の一員となり、年を重ねる毎に懐しく思うのは学校生活のことです。母校で共に学び、共に遊んだことはいつまでも忘れることが無いばかりか、同窓生であるということだけで心がなごみ、解けあえるものです。心暖まる楽しい同窓生としてお互に助けあい励ましあいながら、六稜同窓会が今日まで正しく育ってきていることは私共の誇りであります。会員諸兄姉の暖かい御援助と御激励を心からお願ひしたいと存じます。

北野中学を卒業した昭和3年から既に50年以上がたちました。私はそれ以後、大阪を離れていることが多く、正直に申して母校とはむしろ疎遠でありました。10年前に、大阪で生れ大阪で育ち大阪で働きつづけた父の死を契機に私は大阪へ帰って参りました。いわば「帰郷新参」ですが創立百年記念という歴史的な日にめぐりあい故寺尾会長をはじめ先輩、同級、後輩の旧友のひたすらな記念行事へのお働きを目の通り拝見し「六稜魂益々健全なり」の感を深く致しました。私は今、河崎前会長からバトンを受け継ぎ走り出そうとしております。このバトンはまた次の代の誰かに引き渡さなければならぬ重責があります。

さきにも述べましたように、私は昭和3年の卒業ですからもう50年以上たつてしまいました。それに生れは、明治42年(1909年)ですからオーバーセブンティです。母校は戦後新制高校となってからでも30年を経過しました。従って旧制中学の時代は遠く過ぎ去り今や高校の卒業生の方が遙かに多数になっています。しかも半ばに近い女性卒業の方々が男女とも働き盛りの年齢になっておられます。

そこで私はバトンを持って走り出しましたが旧制中学新制高校の「つなぎ」のような気持です。母校を思う気持は旧制卒でも新制卒でも変わりないとしても、矢張り「時代」にあった同窓会の性格なり活動が大切になってきております。

私は一生懸命に走りますが(私は陸上競技部の一員でした)バトンを決して落さないよう次の走者に立派に渡す責任を果したいのです。

いろいろと甘い言葉を述べたようですが、会長をお引受けする決心をした以上現在はこの様な謙虚な心境にあることを率直に御察下下さいませ。母校創立百十年を迎える日の近きを感じつゝ、恩師、同窓生、母校の御健勝を祈ります。

(1980・7・10)

昨年の総会から

森本薫展について

森本薫展を今年度同窓会の行事として催したいので昭五会でその準備をしてほしい、との北野同窓会より連絡を受けたのは暑い盛りのことであった。我々昭五会では数年前より森本薫君の発掘にとりかかり、その片鱗を我々の昭五会報に逐次発表していたが、さて展覧会となると形のあるものを集めなければならない。11月3日の同窓会総会に合わせて幹事並びに動員された準備委員がフル回転に入った。森本薫君と云えば杉村春子さん、この杉村春子さんと我々昭五会とは数年前に森本薫原作「華々しき一族」の観劇会並に懇談会を催して以来のおなじみである。先づこの杉村春子さんの線から森本薫君が北野・三高・京大時代から逝去する迄ずっと世話をされていた長姉林幸世さんが京都市に、それから故薫君の未亡人和歌子さん、並びに遺児年氏、享氏等が大阪市平野区に夫々御健在であることが判った。(次男享氏は京都市在住)。それぞれ電話で連絡をとったり、自宅にお伺する等して、当初思っていたよりも充実した出品物を夫々ゆかりの方々から、心よく提供して頂いたことは各委員の努力もさること乍ら、やはり名門北野の名と故人の偉業によるものと思われる。



出品物の展示も配慮を重ね、完成すれば何でも無いことでも総て各委員が久し振りに力を併せて為しとげたと云う充実感があつた。当日会場には文学、文化に関心を持つ先輩の皆さんが会場に足を運ばれ、展示の数多の写真、愛用の万年筆その他の遺品、それに肉筆原稿、又死期のせま

た時代に書かれたペンの乱れの見える初公開の書翰類、当時の状況がまざまざと思い出される「女の一生」の初演ビラ等を熱心に観覧された。又遺族の和歌子夫人、お孫さんの聖子さん、それに長姉の林幸世さん、次姉の中村花子さん、書翰にも名の出ている姪の松本清子さん等も会場にお見えになり、感激を以てそれぞれの展示品を丁寧にご覧になり、50年前の思い出話をなつかしんでおられた。当日参観の某先輩が、この様な充実した出品物を我々北野同窓生だけしか見られないと云うことは惜しいことだ。どこかの百貨店へそのまま出しても決して恥ずかしくないし、見たい愛好者は随分おられると思う、と話しておられた。11月3日だけの、それも同窓会総会が開かれる迄の僅な時間の森本薫展であったが、我々昭五会としては北野卒業五十周年を来年に控えて、この森本薫展を催す企画を与えて頂いた同窓会役員諸兄姉並に、北野高校の泉校長、清島先生、中野先生等の暖かい御援助に深く謝意を表します。

(磯崎忠男記)

卓話 書物の受け売りでない教育

佐賀真一 (46期・昭8)

同窓の集いは、何時でも楽しい。久々に懐かしい顔と、昔話がはずむわけだ。この楽しさはどうして起るのだろう。この懐かしさは何だろう。

一寸考えると、分り切ったようではあるが、この疑問こそ、生物学を趣味にしている人の著想なのである。

吾々が源氏物語を読む。もののあわれという感情がくり返し出て来る。さて、紫式部はどうしてももののあわれを基盤にしたのだろう。こう考えると、吾々は精神分析学派の着眼に歩みふみ入れたのであって、紫式部が、精神病理学の立場で、人間を小説化した最大の天才人であることに思いを及ぼすのだが、この道程こそ、生物学的なものの見方である。

さて、十三公園に集まるハトの群が、吾々が考えるように、緑の木の枝には集まらず、ごろごろの道路や、砂地の上に群れているのは、一体何か理由があるのだろうか。

こう考えることは、又生物を主題にしているわけであり、ハトの進化からみると、それは砂漠地帯に定着した際に、緑を捨てたのであるという説を、あらためて思い出す。

これこそ生物学的な見方ではあるまいか。

近頃は大容量の計算機が使われるので、複雑な現象の推理に大変便利な道具ではあるが、無理な計算ではないかと考えてよい例が増えて来ている。

一例をあげると、脳損傷のテストに、金属球の中へ、別の球状物を入れておいて、外からショックを加え、この時起る外部と内部の球や表面の動きを、計算機で処理し、脳外科に応用しようとした報告がある。

之を読むと、如何にも立派な研究ではあるが、果して自動車事故の再現になっているのだろうか。

この疑問こそ、生物学的な疑問である。

無限に複雑なもの、即ち生きものを考えたり、見たりする時には、まるでトリヤサルを精密機械の如く考えて、十分に呼吸も、排出も、更に彼等の行動迄分るのだろうか。

そういう見方は、たしかに一部では正しいのであろうが、それだけではない。

ああも考えられるが、又こうも見られる。

これがものの見方であって、この態度は、それこそ教育、注意深い生物教育によるところが大きいと思う。

そうして、一度教育によって、生きものの見方に関して、高い趣味が養われると、卒業後、どんな職業についても、思い違いや、早とちりは防がれるわけであって、身についた考え方はその人の一生を通じて、いよいよ充実したものになると思う。

最後に、女性の天才がどうして少ないのだろうかということも、生物学からみられる見地を取ると、卵子と精子の融合、つまり無から子供、即ち有が生ずるわけだ。しかも女は何等意識してはいないのに。男は千人集まっても一人のカントもダーウインも作ることは出来ない。之こそ天才どころか、神に近い創造能力ではないか。

そこで、胎生、体内の発育、出生という一連の現象が、学問の対象になるわけで、こゝからはもう趣味ではなくなるのだ。

全く分り切った子供が生れるということも考えてみると極めて高尚な学問になる例で、この話を結びます。

第23回 東京六校会総会報告

東京六校会 常任幹事 大山利雄

“年々歳々、来会者が多くなってきており、幹事さんのお骨折に感謝します”という御感想や“もう閉会するのか。せっかく会の雰囲気盛り上ってきているのに、残念だな”といった御意見をきかして頂いた総会でありましたが、こういった御感想をうかがうと、裏方の幹事諸氏の御尽力も報われたかと、諸事取まとめ役はホッとします。お蔭様で、御出席者は昨年を更に上廻り、250名を少しくオーバー致しました。最初、出だしの御出席の返信が少かったので、心配しておりましたが、結果は、杞憂に終り、盛会裡に終ったことを喜んでおります。6月5日、木曜日、東京六校会の第23回総会は、いつもの如く日本工業倶楽部で午後6時から行われました。会長、玉置敬三・東芝会長の御挨拶は、80年代の危機の時代的ななかであって、歳をめされた会員も多数おられる同窓会ではあるが、先ず健康で生き抜こう。こういう場で、若い時代のことを憶い出して、活力のもととして頂きたい、というご趣旨のものでした。

続いて、大阪から、わざわざ御出席賜わった六校同窓会常任理事代表の田村博孝氏から、5月23日の大阪に於ける六校同窓会の理事会で、会長に新たに朝日新聞社主・上野淳一氏が御就任になられたことの御報告。若い会員の方の御出席によって、会が若々しくなることによって、ますます発展することを期待される旨の御挨拶がありました。

昨年に引続き御出席いただいた泉梯二校長は、最近の北野高校の現状を次の如く、御報告なされた。学力は日本一。素晴らしい体育館は出来たが、体育の面は横道い。従来、1学年10学級(1学級47名)編成のところ、此度12学級となり、定員が94名増になったことから、春の入試時に、開校以来初めての珍事が出現して、受験者全員が合格することとなった旨のお話は、新聞報道のない東京地区の同窓にとっては、大変なBIG NEWSのようでした。

今回の御講演は、毎日新聞社編集委員徳岡孝夫氏(60期)に“日本人の国際感覚”という演題でお願いしました。皆様に有益であったと大変よろこばれましたので、同氏をわざわざして別記掲載の講演要旨の原稿を頂きました。

総会終了後、懇親パーティは、森田積二氏(東京六校会常任幹事・58期)の司会によって進められた。大谷湛志郎氏(39期・北野中学校旧師)の元気あるユーモラスのご挨拶を含めた乾杯の音頭で宴会は始められましたが、毎年、朝日麦酒株式会社(株)の御配慮によって(同社専務・中小路茂次氏58期)ビールも、ふんだんに頂くことが出来、いつも乍ら感謝の至りです。宴中、衆議院議員松本善明氏(57期)からの祝電のご披露がありました。

今年は21名の新会員が紹介されましたが、昨年、東大に入学された1年先輩の造力全史君から激励の辞を受けて、一橋大学に進まれた神吉伸幸君より答辞がありました。出席会員一同による応援歌と拍手によって、前途を祝福された新会員の将来を期待します。なお応援歌と拍手は、先輩の中村典英氏(49期)の指揮によりました。最初に述べました様に、多くの余韻を残して、森田氏のリードによる校歌を合唱して、会を閉じたのは、8時すぎでありました。

総会の準備にご尽力頂いた幹事諸氏、またご来賓の各位、ご出席者一同のご協力により23回総会も無事に相済みましたことを、誌上をかりて御礼申し上げます。

会 務 報 告

新会長に上野淳一氏(41期・昭3)

名簿発行にコンピューター方式導入

会員総数 25,000名

常任理事会(55.5.15) 理事会(55.5.23)で決定

会務報告

5月15日・5月23日にひらかれた常任理事会・理事会で各事項について次のような結論をみた。

人事の件 かねて辞意を表明されていた河崎会長が会長を辞任され、後任として副会長上野淳一氏を会長に推薦することに全員一致をみた。

又谷口幸三監事もかねて辞意が強かったが、これを了承、後任は梶田圭児氏(62期S25年卒)をお願いすることになった。

総会会場の件 本年度は気分一新のため母校を離れて会場を外部へ移してはとの意見が強く、又11月3日は日がよすぎてかえって総会に不向ではないかとの意見もあり、結局、10月9日(休)6時より、清交社にて開催することに決定した。

会報の件 総会日取の変更により、発行を1ヶ月早め、8月末日に発行する。規模は昨年通りとする。従って各期は期の名簿を6月10日までに、会報発送の資料として学校に送付することになった。

名簿の件 現在会員数は25,000名に近く、他界者、不明者を除き通信可能者は17,000名という大世帯で、従来のやり方ではとても能率が悪いので、3年後の名簿発行とにらみ合わせ、思いきってコンピューターの導入をはかる。

まず第一期は55年10月以降に原簿を整備しコンピューターに覚えさせ、その後の変更情報を次々と覚えさせ全員の把握の正確さと増大を期し、事務局台帳を作成する。それをもとに56年度の会報を発送する。第二期、更にその後の変更情報を集め一層の正確さを期し、それをもとに57年度の会報を発送する。第三期、以後の変更情報を集め一層正確なる事務局台帳をもとに会報の発送と同時に名簿を製本する。

以上三期に分けることによって、名簿の正確度を高めることができるとともに、費用も3回分割ですむ。

何卒会員諸氏、又各期理事氏のご協力をお願いします。その他の会務は以下のとおり。

○名簿作成委員会

55・6・27(母校応接室3:00~5:00)

55・7・7()

55・7・19(校長室1:00~3:00)

○会報広告募集発送(55・6)

○11月3日クラブスポーツ大会案内発送(55・7・2)

六稜同窓会役員就任

会長 上野 淳一(S2)

監事 梶 田 圭 児(S25)

理事 馬 淵 早 智(S51)

住 山 真一郎(S55)

飯 田 薫(S55)

六 稜 文 庫

(昭和54年5月以降)

S8卒(46期) 中 正敏(本名 中 太郎兵衛) 詩集 続小さな悲願

1 121 54.9.19

S26卒(63期) 木船悌嗣 原色日本昆虫図鑑(下)

1 122 55.4.18

S48卒(85期) 天野慈朗 啄木研究 第5号

1 123 55.4.18

(石川啄木・その短歌と「におい」)

S5卒(43期) 昭五会 六稜昭五会会報、第5号

1 124 55.4.18

S3卒(41期) 北村 學 白節詩抄四編

1 125 55.4.18

S26卒(63期) 木船悌嗣 TAXONOMICAL AND BIOLOGICAL

STUDIES THE LUNG FLUKES OF

CENTRAL AMERICA

1 126 55.4.28

S25卒(62期) 六稜六二会

一里塚(卒業30周年記念) 2 127 55.6.28

(注) 氏名は寄贈者です。

なお他にも卒業生より図書館あてに寄贈された本がありましたが、「六稜文庫」宛になっているもののみ掲載しております。又「六稜文庫」は別途保管しております。

六稜同窓会名簿について

昭和58年に同窓会名簿を発行することになりました。現在名簿の対象会員数は既に2万5千名に及び、将来のことも考慮して一刻も早くコンピューターを利用するのが最良の策であるとの結論に達し、理事会で可決いたしました。

そこでコンピューターにインプットする正確な各年度の名簿が必要になります。現在、同窓会事務局に届いている名簿は次の期のものです。大2・3・5・8・9・10・13・14・15・昭3・4・5・6・9・11・12・14・18・19・24(25)・28・34・35・36・37・41(女子のみ)・47(3年10組のみ)。尚所在の判明している期は大4・11・14・昭2・7・10・13・15・17・20(59期)・22・29・30・31・32・33・50・54・55。の各期です。(55.8.1現在)

上記以外の期の名簿について、何かご存知のことがありましたらご面倒でも下記宛ご連絡下さいようお願いいたします。

〒532 大阪市淀川区新北野2丁目5-13 大阪府立北野高等学校 六稜同窓会 (満臨)

会 計 報 告

六稜同窓会 昭和54年度会計報告

昭和54年度 六稜同窓会 一般会計報告

科 目	54年度予算	54年度決算
収 入 の 部	円	円
1. 前年度繰越金	1,130,673	1,130,673
2. 入会金収入	1,397,000	1,398,000
3. 年会費収入	4,200,000	3,309,100
4. 広告収入	560,000	630,000
5. 臨時会費収入	1,000,000	432,500
6. 寄付金収入	50,000	85,958
7. 利息収入	50,000	40,447
8. 雑収入	10,000	3,000
収 入 合 計	8,397,673	7,029,678
支 出 の 部		
(1) 運営費		
1. 人件費	150,000	30,000
2. 旅費・交通費	300,000	159,420
3. 通信費	100,000	30,470
4. 印刷・事務用品費	50,000	34,310
5. 会議費	350,000	106,670
6. 総会費	850,000	887,280
7. 庶務費	500,000	449,760
8. 雑費	150,000	92,460
(2) 会報発行費		
1. 編集費	50,000	51,400
2. 印刷費	1,200,000	1,113,580
3. 発送費	1,400,000	925,980
4. 雑費	10,000	4,630
(3) 予備費	2,287,673	0
(4) 他会計へ支出		
1. 基金積立会計	500,000	500,000
2. 名簿特別会計	500,000	500,000
支 出 合 計	8,397,673	4,885,960
次年度繰越金	0	2,143,718

昭和54年度 六稜同窓会名簿特別会計報告

科 目	予 算	決 算
収 入 の 部	円	円
1. 前年度繰越金	2,072,776	2,072,776
2. 名簿売上収入	24,000	22,800
3. 広告収入	1,000	0
4. 利息収入	70,000	814
5. 一般会計より受入	500,000	500,000
収 入 合 計	2,667,776	2,596,390
支 出 の 部		
1. 編集費	1,000	0
2. 印刷費	1,000	0
3. 発送費	2,000	1,920
4. 雑費	1,000	0
支 出 合 計	5,000	1,920
次年度繰越金	2,662,776	2,594,470

昭和54年度 六稜同窓会基金会計報告

科 目	決 算	摘 要
収 入 の 部	円	
1. 前年度繰越金	13,937,224	金銭信託(大和銀行)
2. 利 息	925,063	
3. 新規積立金	500,000	二年定期(大和銀行)
収 入 合 計	15,362,287	
支 出 合 計	0	
次年度繰越金	15,362,287	

以上のとおり昭和54年度六稜同窓会会計報告をいたします。

昭和55年 5月 2日

六稜同窓会々長 河 崎 邦 夫

本会計の正確であることを認めます。

昭和55年 5月 2日

六稜同窓会監事 谷 口 幸 三
同 上 滝 井 尚 三

年会費は 2,000円です!!

よろしくご協力をお願いしまあす !!!

年会費制度の採用により、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力を感謝し、謹んでお礼申し上げます。

ところで郵便料金その他の大幅値上げが必至とされており、それに伴う諸事の値上げが予想されています。もしも予想が現実になりますと、現状通りの運営をすることは極めて困難であります。

その上、昭和58年(3年後)創立110周年を迎えることになり、これにも又、相当の財源の確保が必要です。

年会費は 2,000円になりましたが、逆に納入者が減ってはなにもなりません。何卒この間の事情をご了解いただき、旧に倍するご協力ご協賛をお願い申し上げる次第です。

北野戦後史

題字 泉 徳二校長



一連載第3回一

北野高校初期

平石 航 考

荒廃の中の開校

十三の駅を下りてバラックの街並を少し行くと、もうあとは学校まで焼野原であるから方向を定めて最短距離を歩く。たゞ焼野原は火分餅やされて畑になっている。昭和23年4月23日は北野高校開校式であったが、その前日、私たち交流になった大手前高女の教員15名、生徒200余名は初めて北野中学校に登校した。全く慣れないせいもあって、登校途中、私は畑の中へ迷い込んだのを覚えている。期も何もない校舎に最短距離を運動場を斜めに突っ切って通学路がついていた。(後に平石先生巡りから文句が出て運動場は避けるようになったが)。

講堂は汚れ放題に汚れた床は油が切れてささくれ立ち、所々に踏み抜かれたまま、天井は雨漏りのしみだらけでシャンデリヤの円く並んだローソクは所々欠けて今にも頭上に落ちて来るかと不安である。たゞこの講堂に制服の女学生200余り、それに女の先生数名が集まったというのは前代未聞のことで異様な風景であったろう。あれほどはしゃぐ年頃の女生徒たちが余り口もきかず講堂内には異様な静けさがあった。諸注意のあと北野の先生の案内でぞろぞろ校内を見て歩いたが、天井に穴の開いた体育館、床は雨水で濡れている。武道場は畳が上げてある。同志会館(裏門を入って最初の建物、今畳が敷かれてクラブ室娯楽室になっている)は焼夷弾にやられて中はがらんどうの廃墟同然。宿直室などもあとで知ったが大きな穴があらこち開いていてねずみが自由に出入りする有様であった。

翌日、新制高校の開校式。浜田校長の式辞は記念すべきこの日といったものであったと思うが、とても実感を抱いて迫っては来ない。すべて歴史の変革期はこんなものであろう。男女共学やら六三三制などという今では定着したこの制度も当時はいつ逆戻りして元の男女別、六五三制にならんとも限らない、いやむしろそれを希望する風潮さえあった。そういう中での開校式であった。

式が終わってから組編成、カリキュラムの概略説明があった。説明されたのは石田先生(現千里高校長、北野卒業生)だった。私は時間割係などというと教頭の次位の年配先生がやるものとばかり思っていたが、大学出たてのまだ学生の匂いの残っている若い先生が出て来たのでびっくりしたが、更にその明快な説明と要領のよさに驚いた。終って校務運営委員会が開かれた。構成は北野残留組と大手前交流組と人数はバランスのとれたものだったが、何しろ北野残留組には鈴木枯花教頭を始め水島喜平、原勝巳といった錚々たる先生方がいて大手前交流組は影の薄いものであった。

組編成も最初考えたほど簡単でなかった。「選択」となどという生徒が不慣れなことをやるため、生徒の希望が一転二転し組編成もなかなか決まらなかった。漸く決って授業らしい授業が始まったのは5月も10日を過ぎてからであった。その授業

にしても教科書のない科目があり、私の受け持った国語なども教科書はあったが薄っぺらなザラ紙同然の紙質で、たゞ表紙には国語・文部省と印刷されてあった。今の様に教授用資料書もなく、辞書を引いて下調べするのは大変な努力であった。それに授業は講義式はいかん、討議式でやるようにと指示があって教室の机を円く並べかえ生徒が発言し教師はなるべく口数少く指導助言するようというのであったが、慣れない生徒がやるのでは共同研究は名ばかりであって充実した授業になるはずがない。これは生徒の方から講義式に戻して欲しいということで討議式は永くは続かなかった。

私たちは大手前から連れていった生徒たちの不平不満はできるだけ聞くようにそういう集りを時々持ったが、これという不満も出なかった。一番予想した便所などについても出なかったし、校歌などについてもきつと修正とか造り変えとかの意見が出るだろうと思っていたのに、これまた全然出なかった。男女共学になってから新校歌を作成した高校はかなり有るが、わが北野は依然として女生徒たちも「六機の星のしるしを青春の顔にかざし」とか「健児胸まざらめや」とか平気でというより誇らかに歌っているが、これは交流当初から何の抵抗もなく受け入れられたもので私は今もって不思議に思っているし、これが伝統の力なのかと思って見たりしている。

林新校長の来任

浜田校長は当時大阪府学務課長を事務されていたので殆んど学校には顔を出されず、学校行事などは大むね鈴木枯花教頭が代理をされていた。いよいよ新校長を迎えるという前日、浜田校長離任の挨拶が講堂で行われた。夜は校長のお宅で有志による送別の宴が開かれたが、酒も肴も不自由な時代で、「制電」とかいふことで停電になってはローソクを灯して行われた。そういえば大手前でのわれわれの送別会も豊敷きの作法室でどこから仕入れて来たか分らぬ酒と家庭科先生の手料理で行われた。何でも配給の時代で料理屋で送別会など夢にも考えられないことであった。

昭和23年11月6日、林新校長が来任された。47才の若さであった。職員会議の挨拶の中で、私の考え方はモンテスキューの世界観に近く、プラトンよりはどちらかといえばアリストテレス的といつてよいといわれたのを覚えている。これはその後一貫した先生の合理主義の中に表われている。ところで新校長の来任を一番喜んだのは交流大手前組であったと思われる。それまで北野の先生方は親切にオープンで何不足はなかったのであるが、やはり迎え入れられたというよきゆきの気持ちが拭い切れなかった。当時の北野文芸部俳句雑誌「若竹」に載せた私の駄句にもある。

同僚になじまぬ教師夏進む

といった気持であった。それが新校長を迎えて何か新しい北野高校の一員という意識が一步深まったように思った。年が明けて昭和24年、早々から自殺生徒が相ついだ。「若竹」の拙作。

兄のいのち惜しめぬまに春重し

この暗鬱を一度に吹き飛ばしたのは全国高校選抜野球大会の優勝であった。校長を始め教員も生徒も連日総動員であった。優勝戦の時などもうこれで終りという場面が二度も三度もあり、年甲斐もなく声が漏れてしまった。とくに10回の裏、レフト長谷川圭市君の前に飛んだライナーに誰も三塁のランナーを見る。疾走するランナー、ホームを踏んでサヨナラ。誰もがそう思った。球はホームに来なかった。二塁に投げられた。必死に戻ろうとする二塁のランナー。だが一時、球は早かった。重殺となってチェンジ。実況放送のアナウンサーが誤って声屋高校のサヨナラ勝ちを告げたというが無理もない。永い闘争球を見送っていても先ず見られない場面である。

私はその後機会ある毎に、この話を北野の後輩たちに語って聞かせたが、今の生徒たちは知っているであろうか。

ところでこの連日の野球応援の中に教員同士生徒同士教員と生徒の連帯感が深まってゆき、私の大手前意識も完全に消え失せてしまったのを覚えている。たゞ残念なことにこの直前3月初め大手前から来た15名の教員のうち5名の先生が北野を去って行かれた。その中に3名の若い女の先生が含まれていたのは何とも痛ましい限りであった。

復活修学旅行

昭和23年から24年へかけて、我々勤労者の衣食住の復活は目覚ましいものがあった。23年の通勤風景を思い出しても私のことで恐縮だが、カバンは繕うに繕うして来たのがとうとう駄目で風呂敷包。服は合服がないので6月になっても冬服、それも10年以上も前に作ったもの、雨の日など最もみじめであった。傘は穴が開いてよれよれ、靴は兵隊靴のかたち。アルミの弁当箱の中でゴロゴロするナンバ粉の団子。北野文芸部俳句雑誌「若竹」の拙作。

ナンバ粉に腹病む妻や隙間風

全く窮乏の生活といってよかった。それが24年になると大分変わって来た。私は大手前の焼跡学校農園に100坪ほどの畠を持っていたが（これが私が大手前に後援を引かれる一つの理由でもあった）、それも23年秋の甘藷収穫の後それほどの執着もなく放棄し、それ以後畠を手にすることはなかった。荒廃した学園の復興に大いに貢献したのは23年発足のPTAである。初代会長住友化学社長の土井正治氏、続く内藤一老氏等歴代名会長に恵まれ、PTAの活躍は目覚ましかった。林校長は父兄からの信望も極めて厚く、その中にはファンといってよい傾倒の仕方をする人が多かった。府高校に先駆けて図書館の充実が計られたのもPTAの後援による。現在定時刻の職員室になっている所に図書室が構築され、一冊の辞書学術書を購入するのにも容易でなかった時代に寄贈も含めて数百冊を揃えることができた。

24年春には梅田ナショナルホテルでPTAの懇親会を、秋は藍本で松茸狩と、当時としては夢のような光景が展開された。しかし私生活は相変わらず苦しく米などそのまま食べることはなく、私の場合、うどん・いも・まめなどを混ぜて食べていた。衣の方も相変らずで戦前の服をそのまま着ていて、オーバー、合、夏、冬と全部が戦前のものから新調されたのは26・7年にかけてであったように思う。

今年の6月7・8日、62期生（昭和25年卒）の同期会が有馬の古泉閣で行われ私も招待を受けて参加したが、何と80名（東京・日立からも馳せ参じた人も有って）という盛会であった。この人たちは修学旅行もなかったのだから、こうして一緒に旅館で寝るなどということは初めてのことであったろう。齡、知命に近いこれらの人達が子供のように嬉しがる気持を私は十分察することができた。私が北野高校復活第1回の修学旅行に付添ったのは、この人たちの次の63期生の時であった。たゞ参加者は女子生徒だけで男子生徒は除かれた。林校長の意見で、

- (1) 経済事情が逼迫し、家庭によっては非常な負担になる。
- (2) 交通事情が悪く、多人数が利用して一般乗客に迷惑をかける恐れがある。
- (3) 男子には将来旅行の機会はかなり有ると思うが、女子には恵まれない場合が多い。

というのが女子生徒だけに限った理由であったように思う。当時としては背けに当る理由で、私たちもこれで男子生徒を説得したが大した抵抗もなく受け入れられた。これが永く北野方式といわれ、府高校の中でも有名になった。

さてその修学旅行であるが、車中2泊、東京・箱根それぞれ1泊、という強行スケジュールで、車は暖かけられること

は暖かけられたが大変な混雑。当時は主食は携行、旅館で大きなたらいに生徒各人が持参した米をぶちあけるといった大騒動の光景が見られたものだが、この時はやっと米は現地調達できたということで食糧事情も大分よくなっていったものと思える。前にも述べたように夜行夜行の上、間の旅館でも12時過ぎまで眠らないので、さすがの生徒たちも大阪駅に着いた時はふらふらで出迎えの父兄たちに心配させる者も出たがまずまず一人の病人も出ずに済んだ。出迎えの校長もその点第1回の旅行だっただけに喜んでおられた。

荒廃から復興へ

昭和24年の入試は高校発足最初の入試であったが、各高校共若干名補充の程度の募集で北野・大手前・市岡といったところは大手前高校で一括して行われた（問題も我々教員がガリ版を切って印刷し持参した）が、昭和25年度になると本格的な400名（8学級）募集となって新制中学からの入学者のみとなり、この学年には大手前交流生徒は1人もいないこととなった。こうして学校交流・男女交流が漸く過去のものとなりつつあったのである。

ジュン台風という猛烈台風が京阪神を襲ったのは昭和25年9月3日である。戦後の台風として関西を襲った大きな台風はこの外に伊勢湾台風・13号台風等があるが、大阪を直撃しただけ有ってこのジュン台風は最も大きな被害をもたらした。正午、警報がラジオで報じられ、午後1時半がピークで2時頃から治まったが、家は動き瓦は飛び樹木はうなりを上げて折れ全く生きた心地もなかった。翌日午後、漸く登校したが学校の建物、樹木の被害は甚大だった。特に前は畠、後は運動場という校長官舎は被害がひどかった。私が着いた頃、若い先生方が屋根に上って応急の修理をしていた。

63期生（26年卒）は昭和20年終戦の年の北野中学入学であった。62期生は焼夷弾による犠牲者を出したように戦争の匂い生々しいものが有ったが、この63期生も戦争の匂いが多分にしていた。秋の箕面の連足の時だったと思う。1人の生徒が烟草を吸っているのに注意したところ、その生徒は私はもう随分年を食っている。かつて兵役を志願したが終戦除隊となり印刷会社に就職して北野の定時刻に通っていたが、経済的余裕が出来たので昼の方に転学して現在に至っている。途中失職して苦しんだが、今は何とかラジオ屋で働いているといった。こんな生徒がばばばつたように思う。

61期生（24年卒）の高校第1回卒業式後の懇親会（茶話会）などでは教員の後からみかんの皮を投げたりする者がいたが、考えて見るとこの高校1期生は5クラスのうち3クラスまでが大手前から行った教師が担任（私もその中の1人）でたった1年のなじみ。その上残り2人の元からの北野の先生のうち1人の先生も間もなくやめてしまわれたが、この期の有志で行われているゴルフ同好会は今や60回を重ね、和気あいあいの行事になっているとか。

62期生高校第2回の卒業式は第1回とは大変な違いだった。講堂の窓には金網が入り、グランドピアノに拡声器、シャンドリヤは欠けたローソクを揃って燦然と輝く、生徒たちの服装も目立ってよくなり、みかんにスシ、祝いのまんじゅうまで出た。

63期生高校第3回の卒業式は昭和26年2月26日に行われた。2月26日に卒業式が行われたのはこの時が初めてで、その後今日に至るまで2月26日に決まっているようだ。なお入学試験日もこの年、3月17日に行われたのが初めて、これも今日に至るまで3月17日となっている。何れにしても新制高校の基礎が固まって来たのはこの昭和26年からと見てよいようだ。この昭和26年で最もショッキングな事件は定時刻女生徒殺害事件であった。2学期が始まって間もなくの9月10日の昼休、教壇の下から掃除道具を出そうとして床を開けた女生徒がそ

こに仰向けになった女性の死体を発見したのである。騒ぎは職員室へ、そして直ちに警察へと知らされた。被害者は本校定時制の生徒Kさんであった。その日も次の日も職員室は沈痛の気が漲っていた。もし犯人が学内者であるなら北野の土台を揺がすようなことになりかねないからである。誰もがその事に触れたがらない様子であった。当日の午前中死体の上でそれとは知らず授業をやっていたK先生など、いつもの間違さに似ず聞かれても余り口をきかなかった。こうして不安な日が一日一日と過ぎていった。そして1週間程過ぎたある日、事件は急転解決した。幸いといっておかしいが、犯人は他校の高校生であった。彼はその日校庭で行われた府高同士の野球試合に出場したあと、何かムシャクシャした気持で廊下を通りかかった。その時教室で1人勉強していたKさんから何かで注意を受け、逆上してバットを振ったという。全く発作的な事件だったのである。事件は解決した。とにかく学内者ではなかった。職員室は又前の平静さを取り戻した。たゞ宿直で夜半校内巡回の時など、やはりよい気持のしなかったのを覚えている。

北野高校の校舎は昭和6年に建設されたものだそうだが、全館便所は水洗スチーム暖房で、当時としては最先端をゆく建物であったらしい。それで占領時には進駐軍がこれを接収したいという話もあったというが、とても修理のメドが立たない程荒廃していたので止めた。荒廃から今日の復興へこの大事業が林校長在任13年余によって為された。その緒についたのがこの26年頃であったと思う。運動場の改修、プールの水漏れ防止、門扉の建設、窓ワクの改修、図書館・食堂・クラブハウスの建設・道路の舗装・そして植樹。30年後の今日、又それらの建物は塗り直されようとしている。たゞ裏門を入ってからのグリーンベルト、当時ひろひろと頼りなげに立っていた樺は今は大木となり、当時やせて小さかったカイヅカは巨像のように立ち並んで運動場を掩い隠し、守衛室裏のヒマラヤ杉は亭々と聳えてあの古色ものさびた扉の色とよくマッチしている。これらの草木は林校長が当時丹精こめて育成されたものである。

昭和26年入学生から初めて1学年は9級編成となった。これも今日まで続いていると思われる。この年辺りから入学生の出身中学にもかなりの変動が見られた。教育大付属中学の出身者などは激減し、新北野中学出身者が激増して行った。昭和26年に池付出身者14名、新北野出身者32名の入学だったのに、6年後32年には池付出身者は8名に減り新北野出身者は95名に激増している。池付出身者が受験しなくなったのには当校の学内事情が有るのであろうが、新北野出身者の激増は北野高校へのルートとして新北野中学への越境者が増えたのと、当時の門田校長の徹底した進学体制によるものであろう。その後新北野出身者は増え続け間もなく100名を越え、北野高校生4人に1人は新北野中学出身者という時代が来るのであるが、現在はどうであろうか。

運動会(体育祭などとはいわなかった)はダンスなど女子の

種目を折りまぜて男女共学の最初から行われた。後に十三かいわいの人気を集め学校関係者以外の観衆も大ぜいつめかけた仮装行列などは、昭和23年高校第1回の運動会では行われなかったように思う。とてもそのようなムードの時代ではなかった。

第2回は記憶にないが、行われたとしてもアイデアだけ先行して材料がこれに伴わなかったであろう。第3回(昭和25年)に至ってアイデアとそれを表現する資材がマッチして仮装行列は最高の出来栄であったように思う。この大成功が引き継がれて北野運動会の名物となったが、やがてクラス同士豪華さを競うようになり生徒の負担もエスカレートするばかり、漸く反省の時期に入ったが、現在はどうなっているであろう――。

以上、昭和23年高校発足から26年末迄僅か3年間のことをかいただけで終わりましたが、最初62期生山本次郎君の御依頼を受けて書き始めた時には、私北野在勤18年間の少くも三分の一位はかけると思ったのですが、書いているうちあれもこれもと一杯頭に浮んで来て雑然としたまま、期間としてこんな短いものになってしまいました。まこと物足りなく思われる方も多いと思いますし、又足りない所、間違っている所などもあると思いますので、大方の御叱正をお願いします。

(昭和55年6月27日)

しずくいしこうき先生略歴

明治43年東京市で御出生。八高、東大文学部卒。旧制浪高尋常科、大手前高女を経て、昭和23年本校へ。18年間御在勤の後、本校教頭から池田高校長。現在、関西外語大教授。

昭和26年卒・63期の皆さんへ!!

来年、卒業30周年をむかえます。

10月9日の総会後にその打合せをしたいので、ぜひお誘い合わせの上ご出席下さい!!! 有志一同

東京六稜会事務局

〒154 世田谷区若林3-6-18 大山利雄 気付

TEL 03-421-0693

勤務先 〒160 新宿区四谷4-29

野村コンピュータシステム

TEL 03-356-4087

東京地区へ御移動の方は上記へ御連絡下さい。

財団法人洪庵記念会

産婦人科 緒方病院

緒方正美(53回)・緒方正世(54回)・緒方正名(56回)

大阪市東区今橋3丁目18番地 電話 06(231)3255・3256・3257

随想

随想 阿部健一先生

大正6年から9年頃の 北野中学の思い出

佐多直康 (34期 阪大名誉教授 理学博士)

夏期日本脱出中のスイス・ローザンヌより

中学時代強く印象に残るのは、薫陶を受けた先生方の事が第一でしょう。

梶山延太郎校長 当時三高の寮歌をもじって作られ歌われた「ボプラの並木六稜の、セメント垣にかこまれて、大学出たての文学士、赤鼻戴く 900名……」に登場する先生。学校では式の時にしかお目にかけられなかったが、成程「赤い鼻やなあ」と思っただけですが、後年一高に入ってからなんと梶山校長は時めく若槻次郎首相と同級である事を知り尊敬を新にした次第。

佐々木恒清先生 上述のザレ歌の中に「……歴史の時間ツンドラが、天井の節六数へつつ、説き出す歴史はみんなウソ……」とある、アダ名ツンドラ先生（シベリヤのツンドラ地帯の如くお頭のはげてる事から）。試験アレルギーの生徒の心理を察し「歴史応答」と言ふ今で言ふ、レポートの様なものを毎月書かせ、期末試験はその中から出すと言ふユニークな方式を考へられたえらい先生です。

安藤清二先生 アダ名は整髪形の影から「シシガシラ」。当時広島高等師範を卒業直ぐ北中へこられた英語の先生。新入生の我々が稽古台になった様だった。小がらな先生で威厳を保つためかヒゲをはやして居られたが、友達みたいな感じでナレナレしすぎてよく叱られた。

佐野チンシュー先生 アダ名の如く傷痕軍人の漢文の先生。漢文とは全く関係ないが当時中学の体操の教課の一つとして毎年2月頃北摂の山へ「免持り」に行く事になって、獲物の兎を免汁にしてチンシュー先生のお宅の庭で舌鼓を打つわけだが、蒸ふきながら豪壮なお宅に驚嘆した想出があるが、後年アタゴ原ゴルフ場へ通ふ様になって何やら見覚えのある山の起伏に気がつき、よく考へてみると50年の昔免持りに汗を流したのはこの辺らしい。

中村曉興先生 図画の先生だが教室にいつも秀作としてかかっている学校の植物園の花や木の見事な水彩画があった。我々は植物園へは葎や桃やナツメを盗み食いに行くだけであるが、いつ行っても黙々と写生している上級生が居た。写真に近い立派なリヤリズムであったが、何んとこれが佐伯祐三画伯の北中時代の姿であったと知ったのは20年後の事である。

加藤MOK先生 体操の先生である。モックと言ふアダ名の

由来は大阪のスポーツ関係者の間では今でも誰知らぬ者はないと思ふが、MOKはエムオーケー（オーケーは大阪弁で大きいと言ふ事）で実にユニークな発想で感心する。

朽木ラケット先生 アダ名の如くラケット型の大きな額の物理の先生。慣性と言ふ運動の法則を講義の時、先生はやオラ電気モーターを取り出しスキッチを入れて回転させスキッチを切る。回転のエネルギーの電流が切れてるのにモーターの回転は数分間止らない（安全運転の標語一車は急に止らないーこれだ）。先生は改めて再びスキッチを入れてモーターを回転させ前の如くスキッチを切りトタンにスキッチを逆回転の方に入れたとモーターは瞬間的に止る。この瞬間につまり逆回転が始まらない内にスキッチを切るとモーターはビタリ止って丁度実験にすっかり感心した記憶がある。

竹中曉先生 数学の先生は毎年変わったが3年から習ったこの先生には深い印象を受けた。当時日本を代表する初等数学の大家の小倉金之助先生のお弟子で数学に弱かった筆者が北中最初の四年修了で一高入学の栄を勝ち取ったのはこの先生の特訓のお蔭である。後年大阪で最初の入試予備校を開き大成功された由であるが、ずっと前になくなられた。

スポーツ生活(今で言うクラブ活動) 夏休前7月末10日間の水泳訓練が正課に組込まれていて堺市大浜海岸へ通うのは楽しい行事だった。難波から南海電車で堺へ行くんだが、悪友に誘はれて堺の一番手前の龍神駅で電車を降りて好奇の目を光らせながら龍神遊園を通りぬけて大浜海岸へ出る。午前中の事、女等一人も居らず黒塗りの柱、格子に赤壁の独特の遊園地作りの家並が静まり返ってあるだけだった。水泳の指導には卒業生が北中水泳教師団を組織して当っていた。3年・4年になって3里(12km)5里(20km)の遠泳に合格すると助手となり白線入りの黒帽で一年生のカナヅチ連中の指導をさせられる。昼食は教師団当番の作るオカエ雑炊(白米以外豆や野菜やら何が入ってるか分らんゴツ煮だが凄くウマかった)を食べながら、先輩(主に高等学校、専門学校の生徒)からの学校の自慢話を聞くのが楽しかった。

野球 大正9年朝日新聞の主催で第一回全国中等学校野球大会が何の設備もない豊中の広っぱで開催された。社長の村山龍平さんが羽織袴にバナ帽で始球式を行はれたのに驚ろいたがあの時会場設営やら選手身の回りの世話やらグラウンドの整備やらを黙々としてやっていたのが今や世界第二のスポーツ会社に成長したミズノの創業者水野利八さん(当時はミズノ運動服店と言った)の若き日の姿だったのを目撃して覚えてるのは筆者以外あまり居ないだろう。当時の店は堂ビルの向い現在第一勧銀支店の所にあり堂島の家から北中へ通ふ通り道華やかな色彩のスポーツウェア、珍らしい運動器具に入ったものだがそのショウウィンドの片隅にスポルディング社発行の総てのスポーツの解説小冊子があった。ハウツースイム、ハウツークロウル、ハウツー100ヤードダッシュ、ハウツーピッチ、ハウツーキャッチと言った題の100頁内外の一冊50銭の小冊子を色々買って読んでも



最新の技術と50年の経験を生かしたコンプレッサー及空圧製品の専門メーカー 株式会社 田邊空気機械製作所

本社・工場	大阪府摂津市千里丘2丁目14番6号	☎代(06)(388)1331
名古屋工場	愛知県小牧市大字小牧800番地	☎代(0568)(76)4191
東京支店	東京都中央区日本橋室町1丁目6番地	☎代(03)(279)2481
名古屋営業所	愛知県小牧市大字小牧800番地	☎代(0568)(76)4191
広島営業所	広島市広瀬町6-8	☎代(0822)(32)8538
九州営業所	北九州市小倉区浅野2-17-46	☎代(093)(531)1305

のである。自分の技の進歩に役立ったかどうか覚えてないが
悪友共に知ったかぶりの風を吹かすのには大いに役立った。
少くとも英語の勉強にはなった。

陸上競技 筆者は身長 165センチ、腕力もあり自信なかったが珍らしめの好きだったので、中学生では誰も知らないハイハードルに挑戦した。学校のグラウンドで練習するのは恥かしいので芦屋の家の庭に50mの走路を作り手製のハードルを2台置いて上記スポルディングの「ハウツーハードリング」を参考にひそかに猛練習をやる一方、体育部長の先生にハードルを買ってもらい次期運動会に 110mハードルの種目を入れてもらふ事に成功、出場した。100m13秒台の短距離の選手連中が数人出て来たが、ひどいのは一台も飛越せないで結果は筆者が一着タイム20秒。これが筆者学校生活中のスポーツの最初にして最後の唯一の成果である。

日記提出 いつの頃から始まったのか知らないが入学式後に「生徒日記」を配布され、毎週末受持の先生に提出、点検を受ける事が義務付けられていた。これが「修身」の課目の点に入ると言ふんで皆センセンキョーキョーだったらしいが、一応は品行方正学力優等のグループだったから相当辛ラツな事を書いて帰って来た日記に、赤インキで「記述があまり露コツすぎる。表現に注意せよ」などの評が付いてた事がある。**現代少年（ティーンエージャー）批判** 最後に昔の北中とは関係ないが、エスカレートする少年・少女の非行化に付き、教育委員会、学校当局、家庭でお互に責任をなすり合っている様であるが、科学者のはしくれとして体力の低下を取上げておきた。最も目につくのは現はれるのは車内である。車内放送はたへず「老人身障者には席をおゆずり下さい」とやっているが殆んど無視されている。彼等は学校では折にふれ繰返へし教えられ充分以上承知している筈である。その証拠にイジワルジヤサンの筆者は時々ワザと優先席の前に立ってみる。青少年は必ず「イネムリ」を始め、少女は顔を深く下げて文庫本によみふけり前の老人を無視する。要するに立つのが「シンドイ」のである。昔は学校から一里(4km)以内は乗物は許されない。車内では坐る事を許されなかったが少しも苦痛を感じなかった。学校までの往復2時間歩きながら予習、復習をすました優等生を幾人か知っている。食糧事情は完全に回復しているんだから、体力は昔の同年齢より強くなっている筈である。「シンドイ」のはスポーツの練習に体力を消耗したか遊びホウケ夜更しして睡眠不足の故としか考へられない。学校へ入学すれば遊んでても卒業させてもらえと言ふ風潮は、情ないデモクラシイではなからうか。 終り。

怠慢幹事のひとりごと

岸田知子 (78期 渋谷高校教諭)

卒業式の予行の時だったと思うが、年度幹事に誰かになってくれんかと言われ、年度っていうのだから一年交替なのだろうと勘違い、気安く引き受けたのがそもその始まり。十何年もたつてこんな所に書かされるはめとなった。けれど、これまで、それらしい仕事といったら名簿作りの時ぐらいなもので、550名を代表する幹事さんとしては、550名のためにも、六校同窓会なるものにも皆目貢献していないといつていい。

大学4年の時、学年会を開こうという企てにいつのまにか乗せられて、暑い盛りにも講堂を借りてしらけた2時間を通じていたことがあった。どんな会だったか具体的には余り憶えていないけれど、未だに忘れられないことが2つある。私はこの年になつてもまだまだかっこつけてつづるところがあると自覚しているのだが、それが10年も前だとどんなにかっこつけ屋だったか、想像するだに恐い。その会の案内状に、1日位懐古趣味にどっぷりつかってみようよ、という意味のことを書いた。当時は大学紛争のさなかで、体制がどうの、既存の価値観がどうのなんて言っていたころ、そんな時に同窓会なんぞ、すごく「反動的」に思えた(正しくは反動的に見えるだろうと思えた)。私のかっこつけがその文面に出ていたわけで、そう意識して書いたのでもないが、「こんな文書いているようではだめだ」と、後で人に言われて、「あ、見すかされた」と思ったことが一つ。終わってどつと疲れて、こころうさんと飲んで、もう忘れようと思ったころ、親切な先輩が来て「準備は大変だったでしょう。一つにまとめるのはむずかしいですね。僕は、でも久しぶりに友だちに会えて、そのあと飲みに行けて、ともかくこういう機会を作ってくれたことを感謝します」なんて慰められ、余計にその日のしらけた集いを思いしらされてやりきれなくなったことが一つ。そんなこんなで、もう同窓会なんてしないでこころう。少なくとも同窓会に関わる人間であるような疑いを人に持たれないようにしようと固い決意をしたものだ。

その後、同期生をつれあいとした関係上、同期の連中とのつきあいが比較的多くなった。数年前から、学年会を開こうという声が聞こえてくる。何だかこちらをあてにしているようで、やはり、私の意志に反して同窓会屋と見られているらしい。こつちも、誰かがしてくれればそれにこしたことはないが、我々(2人)でせんとあかんのかなあ、なんて気になってくる。あちこちに、たまに会っているグループがいくつもあるらしく、ちょっと声をかけて集まってみよう、数人でしかけてみたのが、今年の正月。ねずみ講式に電話をかけて短期間に集めたのが30人。当日、誰が連絡をとったのか、予想しない顔もあった。思いがけないつながりが見つかるのも、こうした集まりなればこそだろう。また来年も、ともかくかけると、全員一致、ためらいのない顔がうなずいた。卒業

ゴルフ場のエントリー専用 (コース150ヶ所)

阪神百貨店6階

阪神ゴルフガイドコーナー

藤田政江(昭和28年卒)

コーナー専用電話 (06)341-2345・5566

(水曜日定休)

後の年数がこんな顔を作るのかと思った。1年 365日それぞれの生活を生きていて、1日くらいこんな顔で会うのも悪くない。そんな歳になったのかと一人考えたのは私だけだっただろうか。そして、皆、実に未練のない様子で別れていった。

今、私は高校を職場としていて、目の前の高校生活をつい自分のそれと比較してしまう。そして驚くほどいろいろのことを憶えているのだと我ながら感心してしまう。必ずしも、当時はそう思わなかったはずだが、今にして思えば楽しい時代であった。大半の卒業生がそう思っているにちがいない。しかし、その思いは「同窓会」につながっていかない。言うまでもなく、同窓会は、各年度の層の重なりが全体を構成している。我々にしろ、横のつながりを求めるにはそう簡単ではないのだが、年度を越えて、ただキタノという名のもとに集まるほどの意識は、一般的に言って強くない。私は、これは我々の世代の持っている本質的な傾向なのだろうと思っていた。

私はここ数年、北野の後輩に出会うことが結構多かった。その時、彼等に対して、他の者とは違う親近感をやはり抱いた。話題は必ず先生のことから始まる。近い世代の者とは話がはずむのは当然。従って共通項のない、年度のかけ離れた者どうしでは親近感が薄らぐのもこれまた当たり前の話。しかし、キタノという一つの共通項の有無が大きな意味を持つのも否定できない。これは年を経、職を経るごとに、つまり多くの人と会って来れば来るほど強く感じられるようになってきた。してみると、我々のこれまで持っていた同窓会意識は、世代の問題ではなく、年齢的な所から来ていたのかも知れない。「北野です」と言うことで、大なり小なり何らかの恩恵を受けた経験を持つ人も多いはずで、そういう意味で縦のつながりの同窓会というものに意義を見出す人も同輩諸氏のなかに出てくる年頃かとも私は思う。

けれど――相変わらず、総会とか学年会とかに姿を見せず、町の片隅で旧交を温めあう数人のグループも数多いことだろう。自分たちの出たのが何という学校であったかは問題でなく、そこが友を得た場所であったというだけで充分。そんな集いに心引かれる。学校名をふりかざし、同窓会エゴに陥る前に、これこそ同窓会の原点だと考えてみたい、とやっぱり最後はちょっとばかりかっこつけてしまった。

田中電工株式会社 小松電子株式会社

代表取締役社長 田 中 睦 (62期)

田中電工(株)

大阪市旭区高殿7丁目16番31号

T E L 06-951-1131(大代表)

小松電子(株)

石川県小松市安宅町甲135番地

T E L 0761-21-2000(代表)

珈琲は黒い魔女

福田珈琲株式会社

大阪本社 大阪市西区新町1丁目29番17号 電話 (541) 5231番代

東京本社 東京都練馬区羽沢3-38-3 電話 (911) 1011番

代表取締役 福田 規 雄 (60期)

東京六稜会の講演から

日本人の国際感覚

徳岡孝夫 (60期 毎日新聞編集委員)

始業のカネが鳴るとすぐ駆けつけてくるという意味で「ポンプ」とあだ名のついた磯川先生から、私たちが英語を習い始めたのは昭和17年の春である。米英を敵に回し、アジアにおける大英帝国の牙城シンガポールが陥落した2ヵ月後に、ほかならぬ敵性語を習い始めたのは皮肉であった。

窓のそとの、あのライトブラウンの壁タイルにはねかえって射し込んでくる朝の陽を浴びながら「キングス・クラウン・リーダー」の第一ページを開いた瞬間の感動を、私はいまでも昨日のように覚えている。教壇に立つやいなや「教科書の××ページを開きなさい」と英語で勢い込んで命じる磯川先生は、当時まだ少壮客気の人だった。

それにしても、私たちは、なぜまた英語を習ったのだろうか。大東亞戦争は緒戦大勝利ではあったが、日本が米本土を占領し、そしてわれわれの英語が実用の役に立つなどとは、だれ一人として信じていなかった。そして日本に住んでいるかぎりにおいては、英語は一語も必要ではなかった。今日のように「お肌のモイスターを手入れしてナウなフィーリングを」式の日本語は存在しなかったからである。では、なぜ英語をやったか。

絶対に何の役にも立つはずのない英語。私たちは、それを習い、そしてテストにつぐテストでしぼられた。いま思えば、それは私たちの若々しい感受性に、電流の一撃にも似たカルチャー・ショックを与えるためだった。

ショックは、第一ページから明らかだった。そこにはThis is a tent. という一文があった。「これは・である・一つの・テント」の意味であると教わって、私はアッと息を吞んだ。この地球上に、同じことを言うのに日本語とはまったく異なる語順で言う人々が住んでいること、名詞が単数であるか複数であるかを厳密に区別する人々が住んでいることを、私は発見した。

そのときに受けたインパクトの強烈さは、ちょっとたとえようがない。たった一つの英語の、単純きわまる文章が、私のために世界に向かって窓を開いてくれたのである。

今日、私はすでに世界の多くの国を旅し、単に旅するだけでなく、その各国で取材し、記事を書き、なお記事にならなかった無数の情報を受容し消化した。日本では、イギリス人やアメリカ人やスリランカ人と机を並べ、日ごと日本語と英語で読み書き話し、複雑な相談をしたり、冗談を言い合ったり、呑み屋で騒いだりしている。

不知不識のうちに英語で考えていることもある。昨年は、依頼されて「ニューヨーク・タイムズ」に一連のコラムを書

ニッピョウ

業務用食品・洋酒・純氷

日本氷業有限会社 (61回古川)

いた。ワシントンにいる友人が驚いて電話をかけて来て「ジェームス・レストンのコラムより大きく出ている」と興奮していた。

磯川先生の情熱傾けた英語の手ほどきは、このような今日の私をつくるための実利の基であったのだろうか？ それもあるかもしれない。だが、私は、それよりはるかに大きな意義を、前記のカルチャー・ショックに置きたいと思う。

日本人とは異なる考え方を持つ人々がいるという事実の認識。それは、いらい私を駆って、好奇心を振るい起しながら「異なった人」自体の認識へと向かわせてきた。

郵便局は、この道を真っ直ぐ行って3つ目の角を左に回った右側です——そんな英語が流暢に話せることを、私は少しも大切だとは思っていない。日常会話の便などは二の次ぎ三の次ぎであって、比較にならぬほど大切なのは、「異なる考えの人々」の認識、そしてそれと表裏一体になって必然的に起る私の認識である。英語教育は、実にこのために存在するのだと思う。

近代日本の文化の流れは、西欧の認識と、それに伴う日本人の私の認識という二大潮流のもつれ合いだった。

維新直後から始まった和魂洋才、脱亜入欧の熱は申すに及ばず、明治20年代の日本のエリートは、ビクトリア朝風の家を建て、ヨーロッパの流行を語り、子女にローブ・デコルテをまとうてウィンナ・ワルツを舞わせ、外国の貴族と交わることを誇りにした。ところが、それほど欧化に専念したのにとえばピエール・ロチが見た日本人は洋服を着たサルにすぎず、列強との不平等条約の改正には明治44年までかかった。

日本人が、国際社会の中に入れてもらえたのは、そのような西洋模倣によってではなく、むしろ1904年から5年にかけての日露戦争の勝利によってであった。平和な手段によっては達成されなかった日本の目的が、ロシア人という西洋人を殺す能力を発揮したとたんに達せられたのは、何という皮肉であろう。

日本は、殺人によって一躍、世界列強の仲間入りをした。そして日露戦争の直後から始まった、日本人の血のにじむような「個の模索」は、いまでは万人の知るところである。花袋、藤村に始まった自然主義文学、漱石の「それから」「門」「こころ」「道草」と暗鬱になりまじりゆく小説群、鴉外の歴史小説、そして白樺派の文学は、他を知ったあとの私の模索、存在の基盤の追究でなくてなんでありえよう。

近代日本に生きてきた私もまた、日本人の一人として、磯川先生のあの第一課いらい、懸命に自己の存在の基盤を求めてきた。それを書き出せば自叙伝になるほかないので敢てしないが、ただ一つを記せば「大阪的なもの」に根を張っている自分を発見したことである。

私は権威に依拠しない。それは意志的にしないのではなく、私の中の「大阪的なもの」が、私をそうさせないのである。そして外国に住んだり、外国を旅行したりするうちに、わが「大阪的なもの」のほうが権威主義的、官僚主義的な「東

京的なもの」よりはるかに国際的普遍性を持っているのを知って、愉快になった。

私がゴルフ場の観衆なら、グラハム・マーシュがバットをミスしたときに拍手をしないだろう。私がオリンピックの選手なら、1972年のミュンヘン五輪村事件でイスラエル選手が殺された翌日は、追悼式に出ただろう。当時の日本選手団のように、ひたすら練習に励むようなマナはしない。

1960年の海外留学中。1968年冬のベトナム全土を襲ったテト攻勢をユエで取材したとき、1970年11月のあの晴れた日、市ヶ谷で頭上数メートルに三島由起夫の最後の演説を聞いていたとき。1973年秋、オイル・ショックの幕を切って落とした第三次中東戦争をイスラエルで見たとき。1975年4月、陥落前日のサイゴンを難民とともにヘリコプターで去ったとき。……いずれの場合も、私は自分の存在基の上に立って他の存在と交流した。決して権威に拠らなかつた。

緒恨の一事は、1972年の雪の舞う日、群馬県御葉山麓に立って、同窓生・森恒夫のあの過ち多き革命劇の惨状を見たときである。唯銃主義が行き着いた果ては、見るも無残だった。だが私は、長柄斎場の裏通りに市電運転手の子として育った後輩・森の心情とは、交流するものを感じずにはいられなかつた。

今年度の東京六校会総会で、講話を命じられたとき、私は以上のような経験の中からいくつかをかいつまんで話した。それを文章にせよとの下命で書いたのがこれである。

話したときの演題は「日本人の国際感覚」だった。私は、国際人になるとは決して外国人を模倣するのではないこと、むしろ自己の存在基を認識しそれに立つことだと話した。

「東京的なもの」すなわち日本だけに通用する権威主義は、国際感覚の逆を行くものであると私は信じている。東京に住みたいいまなお、旅先にあるような感じを抱きつづけている。思えば、磯川先生をはじめ私が北野中学で師事した先生方は、だれ一人として権威に依拠する道を奨励されなかつた。教えられたのは、自分で考えることだった。配属将校として赴任してきた早慶戦のスター投手、伊達大樹にしても同断だった。

東京を頂点とする権威のピラミッドから自らを疎外した学校に学んだことを、私は誇りにしている。そして最近、官僚主義の全国への氾濫状況を見るにつけても、同窓生や在学生のいっそうの奮闘を願わずにはおれない。(終)

徳岡氏は北野60期卒業後、三高から京大の文学部に生まれ、昭和28年毎日新聞社にご入社。入社後フルブライト留学生として、米国のシラキュース大学で新聞学の大学院課程を修められました。海外ご勤務が長く、ヴェトナムではサイゴンのテント攻を、イスラエルでは第4次中東戦争を取材。イスラエル問題の日本の権威者であられます。また国内では、故三島由起夫氏の話をお聞かせいただいた直後に割腹事件を経験された由で、10数冊の著作の中に、三島氏を悼む悼友紀行があります。訳書としてはドナルド・キーン氏の日本文学史等(大山記)。

写真 貴方のおうちの歴史を つくって見ませんか？

箕面市箕面5-12-9

0727 (22) 1577

株式会社

7オクサン
7オクサン

機械工具・樹脂製品・平和重油ストープ
〒532 大阪市淀川区木川東1丁目3番24号

株式会社 ヒシヒラ

代表取締役 平佐 國夫(第50回卒)

電話大阪06 (301) 4651-6
(303) 8441-2

六稜同窓会だより

明治四五年(25期)

阪神在住者は以前から毎月定例日に昼食会を永年に亘って継続しております。
(北村栄二郎)

大五会春の集い (29期 大5)

6月2日、大阪堂ビルに近い料亭うおまんに集合、定連7名でした。

六稜同窓会理事会の報告があり、会長に上野淳一氏御就任10月9日清交社にて総会の事で全員出席を約し、協力振りを感謝しました。

食後は懇談にうつり、病床にある友達に寄せ書きをして御見舞をし、御回復を祈り、例会に御出席下さる様に希望しました。

私達は既に83歳の高齢者揃いですから“美しい老年期”であります様に頑張らなくてはなりません。

今回は10月6日を約束し、集会の場所は京都辺りにと、芝君に一任しました。
(栗阪原健三)

六稜三七会報告

我々は大正13年の卒業であるから、入学した年から数えると61年になる。現在消息のとれている者60余名で、恒例の「三七会」を5月15日大阪警察会館で開催し19名が集った。

保田先生が数年前から老令のため御出席願えないのは淋しい。現在只一人の恩師である。また3月14日には緒方君の御世話で、有志で一泊旅行をした。近江舞子ダイヤモンドクラブ琵琶湖ピラに東京より山本君、岐阜より百瀬君が加わり合計11名夜更ける迄歓談して、翌朝は阪本、日吉神社参拝、つきそばを賞味して解散した。

北浜3丁目の満塾が復元完成して一般公開されたので、5月31日、緒方蔵吉君をはじめ近くの者9名がこの満塾に集り、洪庵の書斎であった部屋で、緒方君から満塾に就いての解説をもらった。

緒方君は、この満塾の家で誕生し、こゝから「北野」に通学していたので、当人にも我々にも懐かしい記憶がある。当日は大雨であったが、そのあと三越で開催中の「緒方洪庵と満塾展」を見て、同家に伝わる幕末から明治初年への貴重な史料を拝見することが出来た。

我々は毎年編集している文集「六稜三七会便り」を続けて発行し、お互の親睦を深めたいと念願している。

(大正13年 嘉悦新一)

四九会報

四九会は毎年4月9日に会合を開いています。現在通信可能者164名、不明者9名、他界91名。会合の出席者は平均40名前後。

われわれの担任で現在毎回出席下さるのは植村先生(コイモ)土屋(タビヤン)大谷(オタン)遠るばる東京から)各先生です。

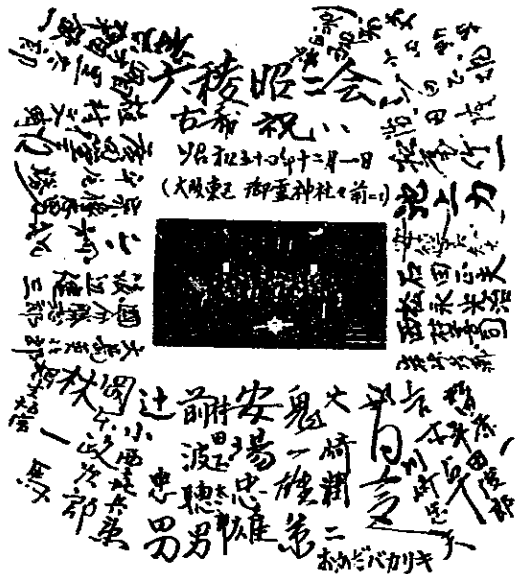
51年 東京と大阪の中間でと云うことで伊良湖宇津江大谷屋一泊会合。翌日ゴルフ組、釣り組、観光組に分かれる。

六稜昭二会 古希の集い

昭和2年卒、出身のクラス会(六稜昭二会)では憎まれっ子世にはぐかって生きた70年、古希を祝う会を開きました。

昭和54年12月1日正午、大阪平野町御霊神社々前に参集、広田、植村両先生を囲む昔の腕白、37名がうやうやしく神前でお祝いの祝詞を授かって感無量、それから貸切りバスで下福島-料亭「此花」で魚すきテーブルを囲んで懐旧談に花を咲かしメートを上げました。
(岡田 記)

写真=御霊神社前で昭二会

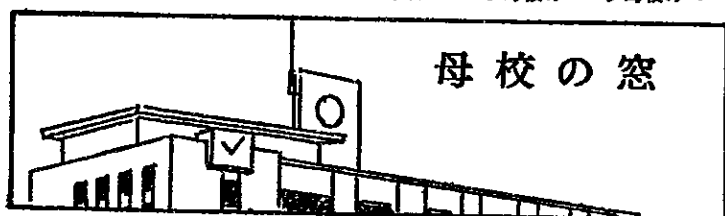


52年 卒業40周年、学校に集合、その後宴会、傍の木を学校に寄贈。

53年 お互の遅延祝、焼津簡易保険保養センター一泊、センターの好意によりマグロ料理に舌鼓を打ち、翌日はゴルフ組と観光組に分かれる。

54年 亡き恩師、級友の追悼供養を曾根崎、法清寺(同窓会葬儀所)にて行なう。大阪市立大学医学部長、大和田国夫君の追悼の言葉に参会者一同胸を打たれる。

55年 土屋、植村両先生の喜寿のお祝い会。学校に集合、甘酒を飲みながら満開の梅(52年寄贈)を観賞、教室に集合、土屋、植村両先生に記念品贈呈、席を「十三」とに移し宴会、両先生の傘寿、米寿迄ご壮健であられることを願いつつ閉会。閉会間際にお土産に十三の焼餅をくばられ、また十三焼餅にまつわる色々の思い出に話がはずむ。余談になるが十三の焼餅は日曜日は焼かれないのにさすが老舗。今里屋久兵衛さん、せっかく全国から集まられるからと特別に当日朝から焼いて下さって、温かい焼餅に全員大喜びでした。
(中村記)



母校の窓

御祝い

- 稲葉憲一郎先生が、体育功労者と
して、昭和54年10月10日（体育の日）
に表彰されました。
- 岡田裕士・小西寛一・中川義邦・船
木照二、各先生が昭和54年11月3日
に大阪府教育委員会より25年永年勤
続の表彰を受けられました。

御不幸

- 浜田成政先生（校長S21～23）
 - 岡島吉郎先生（美術S9～41）
 - 山田祐治先生（体育S6～11）
- おなくなりになりました。心からご
冥福を御祈り申し上げます。

職員異動

佐々木晃先生（S49～55） 教頭
菊川映人先生（S37～55） 数学
山根為雄先生（S32～55） 国語
山脇謙吉先生（S45～55） 国語
三橋千賀子先生（S53～55） 英語
八重紋郎事務長（S48～55） 事務
菅原和子主査（S26～55） 事務

の各先生が、昭和55年3月31日付をも
って本校を去られました。

なお、佐々木先生は茨木西高校の校長
に、菊川先生は、桜塚高校の教頭に、
山根先生は、京都女子大学助教授に、
山脇先生は、小林聖心女子学院に、三
橋先生は、箕面高校に、八重事務長は
西野田工業高校の事務長にそれぞれご
転任になりました。菅原さんは、悠
々自適、趣味をいかした毎日をお送り
になっておられます。

又、昭和55年4月1日付をもって次の
新しい先生方をお迎えしました。

加賀山茂先生（春日丘高校泉原
分校 教頭） 教頭
岡本誠人先生（箕面高校） 英語
青木三郎先生（本校定時制） 国語
平野修三先生（東淀川高校） 数学
松浦賢二先生（長野北高校） 社会
中村和徳先生（新 任） 理科
平松聡子先生（新 任） 国語
松本順子先生（新 任） 国語
馬淵早智先生（新 任） 英語
田原伍美事務長（本庁・宮崎課） 事務

クラブだより

55. 8. 1 現在

【器械体操】

公式戦、昭和54年度2部大会男子団体
総合準優勝、男子個人種目別吊り輪第
2位、平行棒第3位。昭和54年度大阪
高校総合体育大会男子団体総合第6位。
昭和54年度1・2年生大会男子個人種
目別鉄棒優勝、女子個人総合3位、男子
個人種目別跳馬準優勝、女子個人種
目別平均台3位、跳馬2位。昭和55年
度大阪高校春季体育大会男子団体総合
優勝、女子個人総合2位、男子個人総
合優勝。昭和55年度大阪選手権大会男
子個人総合第4位。

【コンピューター】

週2回、放課後に活動していますが、
1年生の会員数が非常に少なく、困っ
ています。現在三年生を除いて、5名
で頑張っています。6月の文化祭では
好評でしたのでまた見に来て下さい。

【男子バスケットボール】

公式戦、第34回大阪高校総合体育大会
78-38対箕面東勝、35-104対大高負。
府立高校大会北地区、77-63対千里勝
46-47対渋谷負、72-22対園芸勝、64
-54対島本勝、73-37対茨木勝。第27
回大阪高校バスケットボール新人大会
57-37対豊中勝、71-35対東淀工勝、
56-60対桜塚負。全国高校バスケット
ボール選手権大会府予選68-38対柏原
東勝、60-45対四条瑞勝。

【女子バスケットボール】

公式戦、全国高校総体大阪府予選2回
戦52-48対渋谷勝、3回戦63-49対直
真勝、4回戦38-72対薫英負。府立高
校大会（ブロック別）59-63対豊中負、
73-32対附属池田勝、67-45対島上勝
69-49対箕面勝準優勝。インターハイ
大阪府予選2回戦62-51対豊島勝、3
回戦80-16対鶴見商業勝、4回戦39-
64対薫英負。
定期戦、遠征試合67-28対膳所勝、75
-31対膳所勝、51-49対八幡勝。

【サッカー】

公式戦、大阪総体0-6対高槻南負。
近畿大会（府予選）6-0対桜塚（定）勝、
0-3対茨木負。インターハイ予選5
-0対池田勝、0-3対北千里負。
定期戦、北野・天王寺戦1-1引き分
け。北野・膳所戦0-2負。

【ラグビー】

公式戦、第59回全国大会大阪府予選1
回戦6-18対門真西高負、第31回近畿
大会大阪府予選1回戦4-6対布施高
負。昭和55年度大阪府春季大会1回戦
40-0対清風南海高勝。2回戦40-0
対高田林高勝。3回戦28-4対花園高
勝。準決勝0-84対大阪工大高負。
定期戦、洛北高戦負、天王寺高戦負。
昨年は定期戦、公式戦に負け続けたが、
冬から春にかけてチーム力がやや充実
し始め、春季大会ではブロックの準決
勝まで進み、自信をつけてきました。
これから先が楽しみなチームなので練
習、試合等応援よろしくお願いします。

【野球】

公式戦、54年全国高校府予選二回戦3
-9対上宮校敗。54年秋季近畿府予選
二回戦0-9対近大付敗。55年春季近
畿府予選二回戦7-3対扇町勝、三回
戦0-4対今宮敗。
定期戦S54年8月0-13対浪商敗、S
55年4月0-13対浪商敗、6月2-4
対市岡敗。

【陸上競技】

公式戦、第33回大阪高等学校陸上競技
対抗選手権大会兼全国大会大阪府予選
会 400m佐野雅昭（3年）第5位50"4、
1600mリレー水谷・佐野・西田・高橋
第6位3'25"6。第33回近畿高等学校陸
上競技対抗選手権大会兼全国大会近畿
地区予選会 400m佐野雅昭（3年）第3
位49"6（全国大会へ出場）。

【硬式庭球】

公式戦、昭和54秋新人学校対抗（府大
会）男子3位、女子2位。（全国大会）
女子1回戦2-3負。昭和55年春、春
季大会団体の部（府大会）男子3位。そ
の他、個人の部でも男女とも府下ベス
ト4ベスト8と、大会毎に躍進。
定期戦、対天王寺高校戦7-2勝。
昨年は女子が全国大会に出場し、クラ
ブとしても活発になりましたし、皆や
る気は一層ありますので御面倒とは
存じますが、10分でも20分でも結構で
すから御指導に来て下さい。なお、11
月3日には秋の総会を行います。

【水 泳】

公式戦、高校総体府予選決勝進出、男子800メートル 満友・佐藤(光)・上山・青木8位、女子200メートル 水野8位、400メートル 三角4位。大阪府高校対抗戦国体予選決勝進出男子200メートル 満友9位、女子100メートル 水野6位、200メートル 水野7位。大阪府新人戦決勝進出男子400メートル 上山・柳田今井・青木7位、100メートル 上山9位、女子400メートル 水野・高橋・三角・的場3位、100メートル 水野4位、的場8位、200メートル 三角9位、200メートル 三角・水野・垣見・的場7位。近畿大会出場。定期戦、昭和54年度対北淀高 108-54勝。対市岡高75-63勝。対大手前高 113-62勝。昭和55年度対県尼高98-49勝。三校対抗(天王寺、高津、北野)男女総合優勝。北摂大会男子3位、女子優勝。

【柔 道】

公式戦、白帯大会1回戦3-0対池田勝、2回戦0-4対大阪商大。インターハイ予選1回戦0-2対豊島高負。定期戦、対豊高戦7-2勝、対天王寺戦(S54秋)点取り5-4勝、勝ち抜き5人残して負。(S55春)点取り0-8負、勝ち抜き8人残して負。

【剣 道】

公式戦、大阪総体男子4回戦2-3対豊中高負府下ベスト32、女子1回戦1-2対南寝屋川高負。北摂大会男子準決勝3-2対関西大倉高勝、決勝1-2対大阪商業高負準優勝。女子1回戦1-2対箕面東高負。新人戦男子5回戦3-4対牧野高負府下ベスト16、女子3回戦対四条高不戦負け。インターハイ予選男子団体3回戦5-0対大阪学院高勝、4回戦3-2対高槻北高勝、5回戦2-3対近大付高負、府下ベスト16女子団体4回戦4-1対天王寺高勝、5回戦1-3対千里高負府下ベスト16。女子個人佐々木ベスト16。男子団体、女子個人佐々木は7月20日の府下優勝大会の出場権を得る。定期戦、北野、豊中、池田三高戦男子団体優勝、男子個人優勝(佐本)、女子団体優勝、女子個人優勝(牧野)。現在、剣道部には特定の指導の方がいらっしゃらないので我々のみで練習を行っております。暇な折には、どうか御指導のほどお願いいたします。

【コーラス】

昭和54年度関西合唱コンクールBグループ10位奨励賞。六校祭、大阪府連合音楽祭、新入生歓迎演奏会、文化祭。

【漫画研究】

今までの活動としては、豊中・東豊中・桜塚・豊島・刀根山・梅花高校の漫画と交流会を行い、そのうちの四校(豊中・東豊中・豊島・刀根山)と協力して、池田市民文化会館でイラスト展を開催。また会誌「りくりょう3」を発行。

【写 真】

学校行事の際はもちろんのこと、日頃各部員の個性による作品を制作いたしております。文化祭の展示は盛大に行いました。以後、月1回の撮影会を基にして「六校サロン」(月1回)を行なっていきます。今年は非常に1年生が多く(約50%)、今後に大きな期待が持てそうです。尚、我が部におられましたOBの方々ぜひ御連絡下さい。(現在部員数は、男19名、女8名、総数27名です。)

【放 送】

第33回文化祭放送劇「ANOTHER WORLD-遮断機の向こう側-」上演。レコードコンサート(物理講義室において)。平日朝・昼の校内放送。この度、OB名簿を作成する予定ですので、転居等で変更になられた方は、お手数ですが、御住所、電話番号をお知らせ下さい。

大学合格者一覧表

(55. 5. 24 現在)

国	立	男	女	計	九	州	大	2	1	3	大	谷	大	2	2	武	庫	川	大	10	10	上	田	安	子	服	部	1	1								
北	海	道	大	2	1	3	佐	賀	医	大	1	1	2	京	都	外	大	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1							
東	北	大	1	1	1	熊	本	大	1	1	1	京	都	女	大	10	10	天	理	大	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1							
筑	波	大	1	1	1	大	分	医	大	1	1	1	京	都	産	大	1	10	11	産	業	医	大	1	1	2	兵	庫	職	立	厚	生					
東	京	大	11	1	12	合	計	男	女	計	190	75	265	同	志	社	大	82	20	102	大	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
東	京	医	歯	大	1	1	会	立	男	女	計	1	1	同	志	社	女	大	5	5	合	計	262	266	528	計	8	8	8	8	8						
東	京	農	工	大	1	1	静	岡	産	大	2	2	2	ノ	ー	ト	ル	グ	大	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
お	茶	の	水	大	2	2	岐	幸	産	大	2	2	2	立	命	産	大	26	14	40	京	大	医	歯	短	大	1	1	国	立	213	83	296				
一	橋	大	3	1	4	京	都	府	大	1	1	1	電	谷	大	1	4	5	京	都	府	立	女	短	大	2	2	公	立	18	12	30					
金	沢	大	1	1	1	京	都	府	医	大	1	2	3	大	阪	医	大	10	3	13	京	都	女	子	短	大	11	11	私	立	231	234	465				
福	井	大	1	1	1	大	阪	女	子	大	1	1	1	大	阪	産	大	2	2	2	大	阪	医	歯	短	大	1	1	短	大	32	32	32				
名	古	屋	大	1	1	1	大	阪	市	大	11	8	19	大	阪	産	大	2	16	18	大	阪	女	子	短	大	2	2	學	大	7	7	7				
名	古	屋	工	大	2	2	大	阪	府	大	11	1	12	大	阪	学	院	大	1	1	1	大	阪	女	子	短	大	1	1	就	職	3	3	3			
滋	賀	大	4	1	5	神	戸	高	大	1	1	2	大	谷	女	子	大	1	1	1	大	阪	キ	リ	ス	ト	短	大	1	1	合	計	469	364	833		
京	都	大	69	13	82	慶	應	工	大	1	1	1	大	手	前	女	子	大	1	1	1	関	西	女	子	短	大	1	1	5	4	年	（昨	年）	男	女	計
京	都	工	大	1	1	1	京	都	府	医	大	4	4	4	関	西	大	32	31	63	関	西	外	婦	短	大	2	2	国	立	201	82	283				
京	都	教	育	大	1	1	和	歌	山	医	大	1	1	1	関	西	医	大	4	5	9	金	剛	短	大	4	4	公	立	25	12	37	37	37	37		
大	阪	大	53	19	72	合	計	男	女	計	31	16	47	関	西	外	大	2	2	2	梅	花	短	大	1	1	私	立	293	225	518	518	518	518			
大	阪	外	大	4	4	4	私	立	男	女	計	近	畿	大	4	4	4	甲	南	女	子	短	大	2	2	短	大	2	2	短	大	29	29	29			
大	阪	教	育	大	9	9	青	山	学	院	大	1	1	1	相	愛	女	大	1	1	1	武	庫	川	短	大	4	4	學	大	4	4	4	4			
神	戸	大	22	15	37	学	習	院	大	1	1	2	甲	南	大	2	11	13	松	蔭	短	大	1	1	1	就	職	5	5	5	5	5	5				
京	都	女	大	2	2	2	慶	應	医	大	35	1	36	甲	南	女	子	2	2	2	合	計	34	34	合	計	523	353	876	876	876	876					
京	都	教	育	大	1	1	上	智	大	2	2	4	神	戸	学	院	大	4	4	4	大	阪	女	子	短	大	2	2	国	立	190	75	265				
島	取	大	4	4	4	中	央	大	3	3	3	3	神	戸	女	子	学	院	大	10	10	防	衛	大	2	2	公	立	31	16	47	47	47				
島	根	医	大	1	1	1	津	田	産	大	2	2	2	神	戸	女	子	大	18	18	防	衛	医	大	1	1	公	立	31	16	47	47	47				
関	山	大	1	1	1	京	都	女	大	2	2	2	慶	和	女	大	1	1	1	合	計	3	3	私	立	282	246	528	528	528	528						
広	島	大	1	1	1	東	京	理	科	大	4	4	4	関	西	学	院	大	43	39	82	各	種	学	校	男	女	計	短	大	34	34	34				
徳	島	大	3	3	3	日	本	女	子	大	1	1	1	松	蔭	女	大	2	2	2	大	阪	女	子	短	大	1	1	大	3	3	3	3				
愛	媛	大	3	3	3	早	稲	田	大	19	3	22	関	西	女	大	1	1	1	大	阪	府	立	短	大	1	1	1	就	職	1	1	1				
高	知	医	大	1	1	1	愛	知	学	院	大	2	2	2	兵	庫	医	大	5	4	9	大	阪	府	公	衆	衛	生	1	1	合	計	506	372	878		

【男子バレーボール】

公式戦、国際児童年記念大阪高校総合体育大会1-2対泉陽高敗。大阪府立高校大会2-0対豊島高勝、2-0対茨木西高勝、城山高棄権の為不戦勝、2-1対泉陽高勝、0-2対今宮高敗ベスト16。新人大会(選抜大会大阪予選)第1次予選(秋季部2部リーグ)2-0対豊島高勝、0-2対電通高敗、2-0対茨木工高勝。春季大会兼大阪高校選手権大会第1次予選(春季部別1部リーグ)第2次予選(全日本高校総合大阪予選ならびに近畿大会大阪予選)0-2対天王寺高敗、0-2対高津高敗、0-2対大手前高敗、0-2対都島高敗。定期戦、対天王寺高校2-0勝。

【女子バレーボール】

公式戦、昭和54年度大阪高校総合体育大会兼国体大阪予選1回戦2-0対久米田高勝、2回戦0-2対宜真高負。第13回大阪府立高等学校普通課程バレーボール大会0-2対北千里高負、0-2対箕面東高負。新人大会兼選抜大会大阪予選0-2対守口北高負。春季大会兼大阪高校選手権大会1回戦不戦勝、2回戦2-0対柴島高勝、3回戦1-2対岸和田産業高負、(3・4部入替戦)2-1対天王寺高勝。全日本高校総合体育大会大阪予選ならびに近畿大会大阪予選1回戦2-0対岸和田高勝、2回戦0-2対河南高負。定期戦、2-0対天王寺高勝。5月11日に行なわれた3・4部入替戦において天王寺高校を敗り3部に昇格。

【オーケストラ】

活動状況：週に3回(火・木・土)音楽室及び講堂にて。部員は60名。年間行事：4月新入生歓迎演奏会、6月文化祭出演、8月合宿、11月六校祭出演。本年度も新入部員が20名余りもあり人数の上では整ってきました。現在の悩みは基礎技術の習得と部員増による楽器の不足です。先輩諸兄姉には御多忙とは存じますが、土曜日の午後でも音楽室をのぞきに來て頂きますよう、部員一同心よりお待ちしております。

【囲碁・将棋】

第4回全国高校囲碁選手権大会大阪府大会に4名出場、その中鳴上佐紀子3段(1年生)は府代表女子選手(3名)に選抜され、全国大会への出場権を得た。他の3名の選手もよく健闘した。11月3日同窓会主催のクラブ大会には囲碁大会も行いますのでご多数御参加。

【地学研究】

昨年7月26日より能勢で合宿を行ったが、3晩のうち1晩しか暗れず十分な観測はできなかった。しかし、ふだんは見られない美しい星空とたくさんの流星が見られた。その後、以前からやっている反射望遠鏡の製作をすすめ、それと並行して新たにソーラー・プロミネンス・アダプターの製作を始めた。望遠鏡は未完成だが、今年6月24日には初めてプロミネンスが観測された。

【化学研究】

現在月・水・金と週3回活動しています。現在二、三年生の部員に比べて一年生の部員が多いので、もっぱら基礎的な実験操作の習得に努めています。そのうちに定期的に学校近辺の環境調査(大気汚染、淀川の水質検査)をやってその結果をまとめてみたいと思っています。

【新聞】

全国高等学校新聞コンクールで第137号(11月26日発行)が佳作に選ばれました(コンクール参加は数年ぶりのことでした)。朝日新聞短期連載「改革多難新入試制度」(最終回3月17日付)に第138号(2月25日発行)掲載の「共通一次に関するアンケート結果」が引用されました。昨年度は、海外留学等で二年生が欠けたものの三年生と一年生の協力で昭和三十一年代以来の年間紙面プロイド16面という実績をあげることができました(発行費広告収入依存率82%)。昨年度六校会報P12、水落先生の御発言中、昭和53年度の発行回数が「年1〜2回」となっていますが、同年は3回しておりますのでお断りしておきます(編集上のミスかもしれません)。部史とOB名簿の製作は連絡をいただいたOBの方が5名に満たず、断念せざるをえなくなりました。

【E・S・S】

E・S・Sは、週3回(月・水・土)の放課後活動しています。ふだんの活動では、カセットテープを使って発音練習や会話練習をおもに行っています。その他、何か物語を少しずつでもいいから読んで、みんなで内容を検討したり、個人では昼休みなどにタイプライターの練習をしています。また毎年4月には新入生へクラブ紹介として、部誌を発行しています。そして、文化祭に英語劇(55年度：不思議の国のアリス)を発表しています。

故浜田成政先生を想う

山川 信夫

北野中学及び高校に、私は昭和8年から15年間に在職した。私の記憶では職員にも生徒にも自由主義的空氣が強かった。それで大阪府は、太平洋戦争末期に、佐賀中学から田村清三郎校長を北野に來任させたのであるが、時代の要請もあり彼は軍国主義的独裁的で、自由主義的傾向の教師は圧迫されたと感じたようである。

文部省が終戦後、大阪府視学官であった浜田成政氏を北野中学校長に起用したとき、氏は前任者と違って自由主義者としての姿勢とすべてを理論的に処理することで、職員生徒と父兄の強い信頼と支持を集めていた。

大阪府教育委員会発足後の昭和24年10月から12年間、浜田氏は大阪府教育長を勤められたが、私は学事課長、指導課長として10年間その下にあった。

終戦後の大阪府の、小・中・高の新学制を育成した大部分の功績は、浜田氏のものであると私は今思っている。私の五高時代の山友達緒方信一(元文部省初等局長)が「浜田さんは全国の教育長のうち一番の理論家である」と洩らしたように、優れた教育行政理論の持主であり、教育予算の読みが鋭く正確で、人事行政の読みも亦深かった。浜田先生は、今後日本にはもう現われることのない、風格高き明治人の一人であった。

【美術】

顧問の中村弘先生(本校S11卒)のご指導のもと、文化祭や高校展に向けて油絵パネル等を製作。尚、8月に合宿、春と秋に日帰りスケッチ旅行。現在先生のご来校日は月・水・金。6月文化祭、9月大阪府高校展(於市立美術館)、3月(S56)第1ブロック展。

【映画研究】

今年の文化祭では「不気味の国のアリス・Alice in Underground」という30分の幻想的な映画を制作。1・2年生部員わずか4人ながら友情出演者多数の協力でやっと完成しましたが、当日は映写機の故障のため一度しか上映できず。機材が借りものの技術も未熟ですが頑張っています。今後はコンクール出品作品の制作めざして活動する予定。

お知らせ

○学級増により、増設校舎の工事を表門の西側、新館の南に現在いそいであります。完成は9月の予定。

座談会 ひとことふたこと

出席者

2-2 小島秀人 (バスケット)
2-3 尾池行郎 (山 岳)
2-3 上笠京子 (自治会書記)
2-5 市山光明 (自治会々長)
2-10 浅井 晃 (生徒会議長)
2-10 米山隆子 (生徒会書記)

3-1 佐野雅昭 (陸 上)
3-2 高田裕章 (オーケストラ)
3-3 浅井秀樹 (前自治会々長)
3-3 向川寛美 (放 送)
3-7 小西康雄 (剣 道)
3-9 新井達也 (ラグビー)

—— 在校生からの提言——

司会者

山本次郎 (S19~25 弁護士)
溝脇正巳 (S25~28
S37~本校教諭、国語)

因縁のはじまり

山本 先ず諸君らの、北野を志望した動機といったあたりから伺おうかな。
小島 僕の場合は自然の成行で入ったみたい。中学の成績で先生が振り分けるから。家の者も先生にまかせて、まっすぐに決まりました。

尾池 兄が北野に入っていて、色々宣伝してたんですね。それとまあ、社会的評価もなきにしもあらずです。

上笠 友人の兄が北野に入っていたので、そういう人達を見ていたから……

市山 公立高校で授業料が助かるということと、それから共学という点です。まあ、学力に合った高校ということ……

浅井(晃) 医者のお父さんにあこがれて、それでばくも将来医者になろうと思っていたんですけど、その目的のためのワン・ステップとしてね。

米山 小さいときから家庭で北野へ入るように言われていたのと、母の従兄が北野でそのイメージが良かったから。

佐野 兄も北野、親も行け行けというんでね。北野しか考えていなかった。

高田 学校の先生が性格的にぼくが北野に合っていると言ったんです。父親が北野だったし。

向川 大学進学を希望していたので。担当の先生から情報が良く入っていたし、家も近かった。

浅井(秀) 合法的越境をしましてね。現在は東淀川区ですけど、3年の秋に引っ越しました。

小西 地元でしたし、中学のとき勉強したかったら北野、遊びたかったら池田と言われてました。やはり自分を試してみたかった。

新井 地元の新北野中学のときは成績が良かったんです。それに父が六健ラガーの人を良く知っていたし、自発的にというよりも、周りが将来安心だという風に言ったもので……

勉強とクラブは両立するか

山本 皆さん方のうち、殆んどの方が

クラブに入っておられるんだけれど、いわゆる勉強とクラブの時間配分はうまく両立してるわけ？

新井 やっぱりどちらかが……成績がおろそかになるかクラブがおろそかになるか。両立している人もいますけど、立派に。ま、むずかしいところですね。

山本 勉強とクラブは、シーズンみたいに一方が上になったら、他方が下になるという風なものじゃなくてね。北野の部長やられた先生なんかから伺うと、両方できるか両方できないかのどっちかなんだそうだよ。結局、集中度なのかな。やり方だな。勉強でも運動でも、やり方は根底的には共通のものがあるみたいなんだけども。そういう点、小西君なんかどう感じる？

小西 クラブをほんまに自分の満足行くほど成果上げようと思ったら、やっぱり勉強の方が必要最少限で、勉強の方満足させようと思うたら、やっぱりクラブがね、また最少限で……

山本 あー、そうか。むしろそういう現状は、まだ勉強とクラブ活動の初歩的段階かもしれないんだけどね。ラグビーとか剣道は大体一日平均何時間ぐらい練習してるの？

新井 まあ、普通の日では定時刻の制限なんかもありますから、2時間です。

山本 ほんならあんまり、勉強に影響せえへんやないか。

小西 いや、そう思われるんですけどね。ぼくらは学校だけやったら全然足らへんから、自分で道場行ったり、家でやったり……

高田 オーケストラはもうちょつとさばりだと言えさばりです。大体、演奏会の前だったら、毎日やりましてもね、日曜抜かずに。昼レッスンもありますし。

佐野 陸上も、2時間ぐらい。そやけど、家へ帰ったら6時半ぐらいになるし、めし食って、風呂入って、やっぱりすぐ勉強でけへんし、体も疲れますから、そんなに勉強する時間残ってません。

尾池 山岳は、長距離走とその階段使ってね、足腰きたえるんですが、水曜日以外は毎日やってます。やっぱり2時間ぐらい。

小島 バスケットの場合も、勉強と両立してるとは言えないんですけど。せやからと言ってクラブやってなかったらもっと成績よくなるかという、そうでもないみたい。

山本 自治会をしておられる人のご意見はどうですか。

市山 僕の場合は運動部の方にも入ってたんでね。今は入ってませんが。運動部のクラブに入った場合に困るのは、身体的疲労なんです。だから終って帰ったときに、あー勉強しようかなと思っててもね、身体的にしんどいからこの辺でやめとこかと、その辺りで妥協してしまう。生徒会活動で困ることというのは、身体的にえらい精神的にもね、今日の会議でまともなかつたらそのことがいつまでも頭に残って、進級試験とか授業中でもね、今日は4時間目会議やな、あーまどめなあかん、そういう風に考えてしまってた。精神的に障害があります。

山本 君の言ったことは、それが人生という奴なんだよ。そうか。色々今の自治会いうのも、うるさい問題があるのか。

市山 あると言えば、根本的な問題としてあるんです。

自治会には無関心

山本 どういう問題があるの？

市山 自治会活動が活発でないということ。

山本 活発でない。ぼくらのときはね、戦後だったからなあ、ものすごく自治会活動が活発でね。校長最終決定権問題とかなんとかそういうのを生徒の方へ取り上げようとして、色々やってたね。今はむしろ、あまり自治会活動に活発でないということが問題点なんだね。

市山 三無主義とは言いますけど、ぼんまにこう無関心なんですね。だ

から何をやるかやなしにね、何もしないんですよ。だからなぜしないかについていうことになってね、行き詰っている。

山本 学校紛争の時代はどうだったんですか、自治会活動は。

満島 やっぱあるときでも、執行部がなかったときもありましたね。

山本 今、市山君が言ったようなことは生徒会の場合もおなじですか。

浅井(晃) もちろん同じです。

山本 自治会とか生徒会に対して、みんなが消極的になるという理由はどういうところにあるんですか。

浅井(秀) どういうことというよりも、何もやってませんからね。

山本 議題がないの？

浅井(秀) ないこともないんでしょうけども、完全にね。普通の生徒と自治会の役員とは離れてしまって、自治会で今どういうことをやろうとしてんのかということは生徒も知らないだろうし……もし生徒が何か考えても、そういうようなことを実際に自治会の方にまで持って来て議題にするようなこともないでしょ。もちろん問題はあると思いますよ、でも……

山本 君がね、たとえば去年、自治会の会長になったわけだけど、これは自分でなろうと思ってなったのか、それとも？

浅井(秀) それはね、色々ありましたけども……

山本 政治があったわけか？

浅井(秀) その前三期、なんにもなかったわけですよ。

山本 えー、三期も？

浅井(秀) それで、ぼくは別に出るつもりはなかったんですけども、1年生がね、5人出るということになって、ぼくそのとき2年生でしたけども、顧問の先生がね、1年だけやらせて心配や、おまえも出ろって言われて、くどかれましてね。で出たんすけども。

山本 あー、そういう事情があったの。そんなにみんなが消極的というか、関心がないという理由はどういうことなんだろう。やっぱり、受験勉強の方が忙しいからか。

小島 そんなやなしに、何っていうか、やる気ないわんなあ。みんなもう、醒めてしまっただけね。無関心なんですよ。

小西 やってもどうせ無理やいう気持ちでね。何しろ男子ロッカーを広くしてくれという問題でも、話聞いてもらったら、これはもうここに場所がない言われたら、もう終りやからね。色々

と事情がやっぱり、上の方にあるんですよ。

小島 自治会が色々何かやってもね、直接自分らに何にも関係ない、特に影響ない、そういうような考えが。

山本 ふーん、そういうことなのか。愚公山を移すというところがないんだね。まあ時間がないから、先へ行くけど……

進学問題

山本 諸君らの場合は、進学するっていうことがどうしても前提になっているんだけど、すると学生生活っていうのも進学問題をいつも中心に考えているわけか。米山君なんかどう？

米山 進学問題でね、まだほんとにピンと来ないんですね。中学から高校に来るっていうときに、ほんとに進学問題らしい問題っていうのが実感としてなかったものですから。自分でもどんなもんであるのかっていうのが判らないんですね。だからただ、先生らでも言いはることは、今日の勉強をちゃんとやるときにさい言いはるから、そういうもんかなって……

山本 こらまあ、3年の連中から聞くか。佐野君なんか、どうやねん？
佐野 一応勉強はね、そろそれが一番大切やと思ってやっていますけども。そのわりにクラブの方が今は主体で、勉強はいいかげんにやっています。

山本 志望校は大体決まっているの？

佐野 1年のときから決めています。京都の法学部です。

高田 ぼくは理学部へ行きたいって言ったんですけど、ちょっと周りが反対してるから、どうなるか……

山本 京都の？

高田 ええ、一応。

山本 京都が多いんだねえ。

向川 私はどの学校かはまだはっきり決めてませんが、学部は大体決まっています。英文へ。

浅井(秀) ぼくは一応、法学部ですけど。行きたいのは文科1類で、まあ一応、公務員になりたいんですけども。ちょっと成績が……

山本 いつだったか寮歌祭で京大のグリークラブの連中が来てたけど、北野の奴めものすごく多いわけや。「君は何科ですか」と訊いたら殆んど工学部。一人だけ医学部がいたな。法科なんか誰もおらん。文科もおらん。(笑)ぼくはね、それを聞いていてちょっと片寄ってると思ったんやな。池田内閣時代の科学技術教育重視の影響かなあ。小西君はどこ行くの？

小西 はっ、ぼくですか。工学部。

山本 北野の奴は数学がものすごくで

きるらしいから、工学部はオンの字やないの。

小西 ちゃんとやとつたらね。

山本 新井君は？

新井 医学部です。

山本 野球部でも黄兄弟なんか、運動やってて医学部入っているからねえ、がんばれよ。

めざめについて

山本 では次に異性問題に触れたいと思いますが、あなた方、もうあんまりお互いに異性というふうな感じはないんですよ。

上盤 あんまり、ありません。

市山 まあまあ、ぼくとしてはね、あんまりないんですけども。中にはよう一緒に帰ってる人とかね。そういうの意識してる人がやっぱり仰山おると思います。

山本 最近ではカップルが目立っているんだけど。高田君なんかどう？
高田 ぼくは色々、コトばかりおこしてる方やから。あんまり何も言いたくないんです。

山本 云いたくない。君は黙秘権行使か。(笑) じゃあ佐野君は？

佐野 ぼくなんか、すぐ誰でも好きになってまう方やけど、せやけども、そらよう考えてみたら、まだ友情みたいなもんやね。

山本 いや今、おれが訊いとるのはな。異性に惚れるというかね、つまりロミオとジュリエットほどには行かんにしても、つまりそういう意識はないのかということや。米山さん、どうや？

米山 あります。それ、やっぱり……

山本 それやっぱり、あるやろ？

米山 はい。普通に。

山本 この学校でもおこりうるわね？

米山 あると思います。

山本 浅井君は？

浅井(晃) それはやっぱり、相性の問題でしょうね。

山本 相性相性いうけども。男と女というのは相性の悪い相手に惚れたりして、えらい目に逢うわけや。そんなあんなの言うてるようには……

浅井(晃) しかし今ね、つきあってるとすね。

山本 つきあってるの？

浅井(晃) はい。

山本 君もカップルの一員か？

浅井(晃) いえ。北野じゃないです。

山本 あ、そうじゃないのか。

浅井(晃) つきあってて、やっぱり友達っていう感じすね。

山本 なるほど。

浅井(晃) なんでも打ち明けられる……

山本 内心は夢うつで、夜も眠れないようなことはないか？

小西 あるといったら…… (笑)

山本 いやあんたの実話でなくても、一般論でもよろしいよ。

小西 やっぱり誰々っていうんじゃないくて、女生徒っていうだけで興味もつっちゃうかなと思いますけど。

新井 そういう話も聞いたことがありますけど。

山本 聞いたことある？

新井 勉強やってても集中できないとかね。何かやってても、何やチラチラチラチラ…… (笑)

山本 そういう問題もあるあなたの受験生活に関係あると思うんだけどね。勉強と運動っていうのは、これは両立するんだよ。だけど女性の問題とかそういう情緒的な問題となるとこれがあかんのやなあ、これが。昔、甲子園で優勝したナインは全体で20番の中に4人ぐらい入ったけど、勉強と運動は両立する。ただ異性の問題が出て来ると、これは中々集中できないぞ。想像力には時間的制約がないから。文芸部の女生徒の門の前に花束を置いて来たっていうような生徒は、やはり落っこちてたなあ。

はたして女は強いのか

山本 ところで今は女が強いと、女生徒の方が元気があるというふうなことをおっしゃる向きもあるんだけど、これはどうだろう、そういうものでもないか。小島君どう？

小島 そんなことない。

山本 そんなことないか。男の方が強い、やっぱり。

小島 そんな、強いとか弱いというようなことは勝手だし。

山本 その今言うてるのは、現象面だね。女の方が元気そうにみえと、こういう意味らしいんだよな。

小島 そういうことこはあるかも……

山本 まあクラスの席替えのとき、うるさい女の子が来るのが嫌だという女性上位説やら、それから「北野生バツ説」なんぞというのもあるんだよな。オスバツがけんかしているところへメスバツを入れると、オスバツがおとなしくなってしまうって、生殖不能になるとかね。上笠君なんかどう？ あなたなんかその一人じゃないの、元気のいい方の一人じゃあ？

上笠 いや、そう言われますけど……

山本 そういうふうにみえるよ。

上笠 ええ、でもね。何かコンパなんか行ってもね、やっぱりちゃんと最後は男子が送ってくれるしね。で、

そんなことは私はあんまり感じたことないんですけど、女子の方が元気がいいっていうのは、私の場合はね、最近割り切り出してね。悩みがあるからって、こうボヤッとしててもね、解決するわけじゃないでしょ。だから、そういうふうに割り切ってるから、人前でかえって不愉快な顔を見せる人だったら、むしろ元気にやった方が……

山本 向川君はどう？

向川 いや、元気がいいというより、私にしてみれば、女性の方がのびりしているというか、おおらかというか……そういう感じですね。

山本 男の方は進学問題とか何とかで忙しいから？

向川 そう。授業に遅れないように必死で勉強しているから。要するに、余裕がないっていうか、そういう……

山本 ところでどうや。スポーツ選手というのは、なかなか女生徒にもてるんじゃないの？ どうや？

新井 何とも言えないです。

山本 負けてばかりおるから、もてへんのとちゃうか、おい。(笑) 佐野君どうや？

佐野 え？ 女がむらがって来ます。

全員 え？ (笑)

山本 これ書いていたろ。あーそうか。やっぱりスポーツ選手っていうのは、わりと女の子が近づきやすいというか、憧れやすい存在なんだね。

北野ええとこ悪いとこ

山本 それではですね。君たち、この学校に自分の青春の一時期をあずけたわけなんだけど、愛着は感じはじめてる？ 米山君どう？

米山 はい、あると思います。もしここに来なかったら、できなかっただろうと思うところが沢山あると思うから。それと、学校の校舎とかそれ自体にもやっぱり。特にですね、同じように苦しんでる人に聞けるっていうこの学校がね、何かこう同好の士の集りというか、そんな意味でとてもなつかしいです。

高田 やっぱりこの学校、気に入ってますよ、すごく。

浅井(晃) ある意味では気に入ってますね。

山本 ある意味というのはどんな意味？

浅井(晃) 愛着のある先生とか、何ともいえない北野ならではの校風とか。

山本 校風か。そうかそうか。ほんならな、一言づつ言ってもらうけど、あんたたちが見た北野のええとこ悪いとこっていうのは、どんなとこ？

小島 ええとこっていうのは、やっぱり古

い先生が揃っているということ……

山本 君は古い人が好きなんだな。

(笑) それから？

小島 安心感かな。ぼくはこのままでええっていうかね、これ以上はあんまり変えらんといふ欲しい。

尾池 何かこの学校でいうと、おじんの先生が沢山いて、ガンコでね、保守的なことばかり言ってる。ぼくは在学中の今はね、何言っとるかということで腹立ってるんですけどね。出てからとか後でよく考えて見たら、おそらくこれが北野のよきなんだな、と思ひそうでもあるんです。いいとこ悪いところが、ぼくの場合は両立してる。

上笠 やっぱり中学時代になかったところね、私の悪いところをポンポン遠慮なしに言ってくれるのがうれしいです。クラブでもいい先輩に恵まれました。

山本 君はクラブどこやった？

上笠 剣道。

山本 あっ、剣道か？ (笑) それで、何段やの？

上笠 えー。初段です。

山本 初段。えらいねえ。

上笠 いえ、そんなん恥ずかしいです。

山本 君、何段？

小西 二段です。

山本 大したもんやなあ。ぼくらの時代はね、マッカーサーの指令で柔剣道がでけへんかったんや。それで、アメリカのスポーツをやったりね。

上笠 悪いところは別に何も無いし、何かこの校舎カタイなと思ったりしたけど。でも今は、変えられない気持が判ってきたしね。

市山 北野高校でええとこいうたら、なんでもすごく厳しいからね。なんに對しても、ガンバレいう感じだから。スポーツでももし断続競争なかったら、自分で長距離あんなに走れるということが判らなかつたしね。勉強かてこんなに厳しくやらなかつたら、ぼくの学力もここまで上らなかつたと思います。なんでも戻りたて、ガンバラしてくれるっていう感じ。

浅井(晃) いろんな人がいて自分と比較してね、自分を改めて行くことができるということ。それから、適度に厳しいですね。それから出来たら校舎きれいにしてほしいけど。それにまた、一つの特徴にはなってるみたいですけどね。

米山 市山君とおんなじで、ここに来なかつたらでけへんかったことがあるので、やっぱり厳しいからできたということ。そういうことはすごく

いいことだと思います。改善せなあかんことって、別にありません。あんまり妥協しないで、このまま末永く榮えて欲しいと思います。

佐野 ええとこいうのは、やっぱりええ先生がおるいうこと。あの、やっぱり年行った先生がええ。若い先生はあきません。

山本 若い先生も早う、おじんになれいうこっちゃん。(笑)

佐野 セヤからあんまりね、もう先生変えんとね、転勤とかなくて、ずっとおってもらう方がええと思います。何や教科書読むだけいう先生が来たら、やっぱり……

高田 この学校は、何と言っても大変自由なんじゃないんですか。それがすごくいいと思います。

向川 私、この1、2年のことを振り返ってみたらすごく充実してたと思うんですね、いろんなことがあって。それから悪いことと云えるのかどうかわからないけど、何か生徒と先生の間にすごく溝とか壁とかあるんですね。先生がきらいだからその科目もきらいだという科目もあるから、やっぱり先生と生徒の交流というものを大切にしたいと思っています。

浅井(秀) 先ず良い点というのはものすごく厳しくてね。何かいろんな勉強にしても体育にしても、やってるときものすごく辛いですね。しんどいけど、でも曳っぱられて来てるというか、自分で身について来てる。例えばばく、1年生のときに使っていた問題集なんかみて、ボロボロなんですね。でもなんか、それやっただなという感じになりますね。そういう風に曳っぱって行ってくれなかったら、絶対あれだけやれなかっただろうし……。

悪い点というのは、やっぱりこの学校ものすごく保守的なんですね。まあ自由な面もわりとありますけども、やっぱりそこには何というか、古くからの伝統というか何かそういうものが働かなくて、ドーンと居座っているような気がするんですね。

小西 北野の良い所は、自分の限界なんかある程度は伸びるというか、頑張ったらいくらでも行けるというか、それが判ったことね。それから時間が大切というのが判ったし、そのない時間を有効に使うということも判った。中学の時は、ものすごく時間にルーズやったし、何でもこうだらだらやったしね。そんなことやったら、この学校ではついて行かれへんというのがよく判った。

新井 一番僕が北野に入って思ったのは、やっぱり自由やという。それでまた、その自由に甘えるっていうか溺れることなくね。皆もやる時にはなんぼ自由であっても徹底的にやるっていうのは、北野の一番ええところだと思いますね。それから改善すべき点として一番感じるのは、さっき誰かも言った先生と生徒がほんまにもう離れてしまっているという……

ぼくらにとっての高校教師

山本 そこ訊こう。高校の先生方に、君たち何を求めているの。

浅井(秀) そうですね。厳しい中の気安さですか……あくまで師弟という関係があったとしてもね、もう少し親密さとかそういうものが欲しいですね。何か隔りが大きいようですね。

米山 先生の側に改善を求めるといいうことになる、私らの側ももう少し考え直すべきだと思います。私の場合ですけど、すごく先生を尊敬してるから、こう安易に気安とかかふざけたこと言って近寄れないっていうことがあるんですね。だから尊敬するのはすごく良いんだけど、こう敬遠っていうのかな……。

山本 敬して遠ざける？

米山 はい。あの、近づいて行きにくいから遠ざけているんだと思います。

山本 それが問題なんだ、結局ねえ。

米山 全然きらいだとかね、そんなじゃないんです。やっぱり尊敬してるし良く教えて下さっているし。だから好きですけど、好きだからと言ってこう親しく話せるっていうもんじゃないんです、ここの先生は。

山本 親しく話せないか。スキンシップというけどさ、やっぱり人間的な交流ね。人間の心の交流、そういうようなことは感じないか。

浅井(秀) 余り感じませんね。感じてないというか、感じようがないんですよ。実際、大抵の先生と接するのは授業中だけでしょ……

山本 授業中だけか。

浅井(秀) 大体そうでしょう。まあそれから、後で質問に行ったりするかもしれないけど、殆どの先生は授業だけで授業の時間中におびえて聞いていて30分すぎるとか。だからそれ以外に、例えばばくなんか自治会関係の先生とか、別に勉強を離れていろんなことをね、そうすると先生ととても親しく話せますけどね。だけど授業でおびえてる先生なんて言ったらね、そんなんスキンシップも何もなくてかえって下手に話したらね、あてられるんじゃないかとかね。

(笑)いや僕は、そういう感じあると思いますよ。

山本 新井君どや？ あんたなんか教師をいじめることあるのどちがうか？ ちよっといじめっ子みたいな顔してるからな。(笑)

新井 先生方をいじめることなんか、できませんよ。

小西 嘘つけ、おまえ！(笑)……まあいじめられる先生いうたら、新任の先生が多いけど。年行ってる人はいじめられんように、うまくやりますからね。

新井 反対に逆襲されてしまいますわ。みんな助けてくれへんしね。

山本 そこがおれらの時代と違うところや。おれらの時代は、天気の良い日に焼出してな、ハゲ茶びんの脳天のタマゴのてっぺん焼くわけや。黒板にさかんに書きながら手やとるんやけどな。それがバツと振り向いて、光の来るところへ飛んで来よったわけや。そのときにはもう鐘は5、6人先の方へ行ってるけど。『ばく何もしません』なんて言うてもだよ、『そんなことあるか。光は直進するっ！』(笑) 京都の数学一番で出て、カストリ焼酎飲みすぎて、手震えとる先生もおったしな。ウストリいうたら怖いねんぞ、落命するねんぞ。まあ担任の西田先生なんか、クラスコンパいうたら十三の闇市に焼酎買いに行かしたるしな。それで裁縫教室でみんなで車座になって飲んでたら、宿直の先生が『愉快そうですね。わたしも参加していいですか』などと言うてやって来るんだ。(笑) 満願寺でクラスのもん集めて一杯やりながら、人生談義やってはった川井先生とか……そうか、今は教室でさえあんまり先生とのやりとりはないか。

浅井(秀) たしかに、あまり質問はしないと思います。というのは結局、質問しようと思うと、それだけ勉強しなけりやなりませんからね。

山本 まあ大学へ行けばゼミナールというのがあって、ケースごとに意見を出し合っって切磋琢磨するんだけどね。真実探究のやり方を学ぶわけけど……そうか、あんまり質問しないのか。

小西 何か先生の方でもね、形式的な質問だけで、急に突っ込んだ質問なんかあんまりしてもらいたくないみたいな感じ。

山本 女生徒なんかも言わないの？

米山 はい、ないです。指名されて言うだけで……

上蓋 さっき浅井さんが勉強しなれば質問できないと言われたでしょ。

でもね、現国なんか勉強してなくても、自分のもってる感受性で発言できるでしょ。別に予習復習でそんな、考えたりするもんぢやないでしょ。でもね、先生が勝手に読んで行きはって、ここはこういう言葉で、ここはこういう意味でと言いはって、何ていうのかなあ、あんまり生徒の気持ちとかそんなんは生きてないのね。だからそういうのは、私なんかね、言ってもしょうがないんじゃないかなって思ってしまう。

山本 教壇のつき合いはもちろん大事で、それがあくまでも根底にはなってるんだろうけども、ただそれだけだと危険なことがあるよね。というのは、例えば今皆さん方が異口同音におっしゃったように講義スタイルになっちゃってね、定型化するわけや。すると双方楽なんだけど、生きたもんでなくなっているという危険性もあるわけ。だからやっぱり、先生の味というのは、講義を聞いてるだけでは味は出へんので、こっちも色々な方法でシガンでみないと味が出ようにも思うんだけどね。そういう場がないのか、今は。ホームルームなんかどうなってる？

浅井(勇) 週に1時間……何かスポーツしたり音楽鑑賞したり、別にそんな先生と接するという機会ぢやないし。討論も一学期に1回絶対にしなきゃなりませんけど、別に何か他のことでごまかしたりね。

満路 そういうことはあるね。他でも話した事だけ授業中に先生が勉強を離れてね、人生観なり芸術観なりをぶつけて来るでしょ。そんな時に、君らどう受けとめるかね。勝手にことを言うのととか、勝手に熱を吹くという感じにとるのか。そのことに共感して、その先生と親しく接触して行きたい気持ちになるのか……

小西 僕はそんなん好きですわえ。先生が言うてくれはるのは。色々自分が経験したことなんかを言ってくれはるのは。ああこんなことがあるねんああと、だからそういう時の方がこう、パッと目が覚めます。

佐野 せやけど大抵は、先生は勉強をうまいこと教えてくれるだけだわ。ただ大学入るための手段だけと思ってる奴も中にはいるから、やっぱりそんなんやったら怒る奴もいるし、そうになったらサッと別の内職するような奴もおるし……

山本 昔の名物教師なんていうのは余談いうことをやったわけや。その余談いうのは非常に先生方の人間性とか豊富な経験とか学識とかがなければ

出来ないもんなんだよ。けどもどうも昨今は、段々とそういう余談をする先生が減って来てるいうね。そこでね、あなた方が高校の先生というものにただ知識を求めるだけならいいけど、もし人間を求めているというのなら、こっちもコンタクトの方法考えないといかんわなあ。

先生と仲良くなる方法

上笠 すごく個人的なことになるんですけど、私は小さい頃にね、お父さん亡くしてそれから、何かお母さんに相談したら、すごく心配させるっていう気があるんです。だから小さい頃から何か周りの先生に……私も先生を尊敬してるけども、それ以上に頼らないと私はもうすごく駄目になるみたいな感じがしてね。そこら辺が皆違うのかもしいないけど、やっぱり他の人よりかは先生のところによろ相談に行きます。

山本 尾池君なんか、どう？

尾池 うちのクラス担任はね、掃除を一生懸命にさすんです。それで変なことだけど、先生と僕は掃除で張り合ってるんです。

山本 ほう、どんな風に？

尾池 いや、先生が掃除せえ言うからね。掃除せんかったらシャクにさわるから、徹底的にやったら思うし、まあこの前一回さばってしまったけどね。そんなんで先生、いつも必ず見廻りに来るんです。まあ先生に敵対心持ちながら、先生というものを身近に見れるという風に……まああの先生の場合は、特に顔なんか見ても年齢が感じられて……(笑)。

山本 それはあなた方にとっては、まあ怪人二十面相みたいな白髪顔振り乱して近寄りたいたいと思うかもしれないけど、本人は髪の毛が白いだけで精神はかなり新しいつもりなんだよ。新しいいうか、青春なんだよ。だから髪の毛とかそういうことに惑われないでね、(笑) どんどんどんどん勇気を出して近づいて行く。

市山 昔の生徒はね、先生の人間自体に惚れてね、それで接近して行くと聞いてるんです。今の僕らはそうじゃなくて、ただ先生は何か50分働いてね、10分休憩してまた交代しに行くという、ロボットみたいに教材をバアーンと言うて教えてね、そのまま帰って行くという風なそういう見方しか出来ないからね。学問を教える人というより、学問を教える道具としてね、うまいから尊敬するか。そういうことで人間性そのものを学ぶとかいうことは、今はもうま

あ学生は余りしないと思うんです。山本 何でせえへんの。人間性あるかないか判らんやないか。

市山 昔は授業そのものに自分の人間性をぶつけて行かれた先生が割合多かったと思うんです。今の先生というのは、まあただ教える範囲だけだその教育に関してだけ、先生の義務を果たすという先生が最近かなり増えて来たと思うんです。

向川 あのね、全く昔のような先生がいないわけでもないんですけどね、うちのクラブ顧問の先生なんかは。放送部だから殆んど物理科の先生なんですけど。だから私にしたら物理準備室には行きやすいんです。でも他の職員室におられる先生といったらね、行ったら何か周りの先生に睨まれるというか、そういう感じもするし……

小島 でも、先生の家へ遊びに行ったりするとね、先生の素顔みたいなものの、例えば授業中には見られないような素顔みたいなものが見られるから、……そのすごくみんな集まってるけど……

山本 その素顔ということ、裸かということね。これが一番大事なんだよなあ。というのは裸かは真実だし、その真実の上にしか信頼や愛情は育たないと「カラマーズフ」なんかでも言ってるんだよ。やっぱりあんた方は若いんだからね、先生に裸かぶつかって行かないかんよ。先生の方は待つとるんや。淋しいんや。だからね、相関係数なんだよ。やっぱり生徒というのは教師の鏡で、その生徒の中に教師の姿が映ってるんだと思うよ。だからあんた方ももし小粒になってシラけてる云々と言われるんだしたら、先生の方もいささかはヘタッて来とるのかもしれない。満路先生、御経験からそんなこと思われませんか？

満路 やっぱり生徒が先生を反映してるし、その逆も言えるでしょうね。ただ、先生の中には、やっぱり人柄より教材で勝負して行く方がプロかなと、そういう意識が最近強いんじゃないかとも思いますかね。

山本 しかし、それは分けられないでしょう、生徒と先生の関係においても。結局、人間というものは人間関係でしかない、ということだと思うんですがね。だからあんた方にも、やはり一半の責任はあるよ。だからもっとよく考えて血のかよい合った学校生活を送って欲しいということをお願いしたいですね。

山田祐治先生を偲ぶ

高野栄蔵 (昭7卒 45期)

先生にお目にかかったのは昨年7月頃で、先生が亡くなる二ヶ月前であった。その日突然岐阜の私の会社へ電話があり例の調子で君元気かいとの懐かしい声に急遽とんで行って久々振りに温顔に接する事が出来た。当日の御都合は如何と聞ききたる。翌日大阪へ帰るとの事。又同窓のS君と3人で夕食を共にして中学時代の思出話を花を咲かせ旅館まで御送りして別れたのが最後の思出となりました。先生のあだ名はタロコと呼ばれ生徒には大変人気があった。また教え子の顔と名前を悉く覚えて居られたのには全く感心する程であった。先生は、亡くなる直前まで毎日3〜4キロのジョギングを続けられ、また老人健康指導員の資格を持って居られて各地で講演をして居られたのに急逝せられた事は誠に残念で今は亡き先生を偲び御冥福を祈る次第であります。

岡島吉郎先生逝く



昭和9年1月24日本校に赴任、昭和41年3月31日退職される迄の32年間に教職で多忙なかわら独立展、国画会、一陽会と展覧会に入選、年一回の個展とその画業にも素晴らしい活躍を続けられました。

府より優良職員として表彰を受けられ、永年同窓会係としても尽力されました。

退職後は画業に専念、その間後援、教え子の指導、相談などに色々心を砕かれました。

5月17日再度成人病センターに入院、肝硬変のため9月28日午前2時永眠されました。

岡島先生の思い出

49期 中村 弘

どんな回り合わせか、北野中学で美術を習った先生お二人の追悼文を書かねばならないとは。三年生の時には中村 秀典先生を亡くし、昨年(昭和54年)9月28日には岡島先生をお見送りすることになるとは。

先生が北中に赴任された時は僕が三年生の時で、絵画部の部長をやっていた時でした。授業中の言葉の終りに、「……ネ」と言う言葉が多かったのが「ネーちゃん」とアダ名を呈上、やがて先生が出っ尻だったので、地理でアフリカのホッテントット族の写真に似ている所から「ホッテントット」と言うアダ名に変更したのも僕達でした。

美術系、理工科系に進学する者のために用器画の授業があり、授業中態度の悪い者にはチョークの断片がよく飛んで来ました。

卒業、上京、戦争、終戦のごたごたで先生との連絡もとだえてしまったが、昭和26年帰阪、この夏学校へ先生をお訪ねしたのが久方振りの再会だったのです。丁度そこに藤井前校長(当時定時制主事)が居られ、当時岡島先生は全日制と定時制の両方の美術を担当しておられたが、もう両方はしんどいから定時制の方を中村担当しないかとのことで、定時制にご厄介になって今年で29年になりました。

先生の一生は「誠実」と云う一語につきるのではないのでしょうか。それは先生の画業についても、われわれ教え子に対する態度にも云えることです。先生は「野心」のある人間を徹底的に嫌われました。反面、正直な先生の画業にあらわれた「誠実」さはどうかするとつつ込みすぎて画面を重苦しく感じさせることが間ありました。

今度のご病気で一度退院され先生のお宅に伺った時はお元気で、ご自分の画業50年の作品展と画集を出したいと謙虚に話しておられた。そして二度目の入院となり8月6日から美術部の合宿で白馬へ行って来ますと挨拶をしてお別れし、4日後に帰阪して病院に伺ったらもう意識が混濁しはじめていました。それから9月28日お亡くなりになるまで、目も開けられず、口もきかれず、28日朝、奥さんからの電話で先生の亡くなられたことを聞かされ、先生のご冥福を祈りました。

まだまだ沢山のことを教わり、聞いて置きたかったことも教わり、ご相談しなければならぬこともあったのに、今になってそれが残念で仕方ありません。 1980年6月25日

岡島先生の思い出

64期 尼子昌枝 (旧姓内田)

共学で大手前から北野に移り、絵画部に入ったのが先生との出会いで、もう30余年の昔になります。40才を少し出られたゴマ塩類の坊主刈りの先生は、生徒の御指導も熱心で、秋の高校展、公募展への制作で夏休みも出校すると、いつも部屋におられたように思います。又生徒が懸命に描き上げた絵は少々拙くても、いい所を見つけては褒め、自信をつけさせると云うような先生でした。

43年10月中宮画廊で個展をされた折「先生又絵を描きたくなり見て頂きたいのですが」と申し上げると「あ、いいよ。2人でも3人でも描きたい人があったら王寺から出て来ますよ」と快く云われ柴山・田村さんと絵画部OBの女性に呼びかけ、それが母体になり翌年3月、先生のニックネームを一字拝借した「亀の子会」が発足しました。

先生の御指導は、御自分の流儀を無理にならず、個性を伸ばす主義で先生御自身もどの派にも属さず、へつらう事を嫌い自由な芸術の場を歩んで来られました。

最後ながら、ここ迄幸せな芸術の道を探求され得たのも、あの立派な奥様の内助の功があったからこそと思います。

岡島先生遺作展

11月3日より11月8日迄北区曾根崎中宮画廊 2階、3階にて先生の初期の油絵から最近の作品迄とスケッチ、エッチングなどの展示を予定している。

○岡島先生画業50年画集

上記の遺作展に合わせて画集を刊行、申し込みによる頒布の予定です。

趣意書など出来上り次第お送りしますので下記中村弘宛ご連絡下さい。

○美術活動をなさっている

同窓生へのお願い

本校を卒業後美術活動(日本画、洋画、彫刻、陶器、デザイン、染色、織布、版画、写真、漫画、アニメ等々)をされている方は恐れ入りますが名簿を作成しますので、

○活動分野・発表機関・本校卒業年度

○住所、氏名、郵便番号、電話をハガキにて下記迄、ご一報下されば幸いです。メ切は一応、同窓会総会迄にお願いします。

〒559

大阪市住之江区柴谷2丁目2-1-11

電話 (06)685-4327 中村 弘

プロフィール 56期

我々56期は実に多士済々、同期生全員を紹介したい所だが紙数の関係で一部にかぎらせてもらう。毎年秋の恒例の同窓会は阪急産業KKの細見弘取締役のお世話で会場の準備をし談論風発、お互に協力し助け合うためのもてものしい一日である。例えば最近問題の燃料についても東燃の牧野取締役、日石の野田進一取締役、共石の矢野敏夫君、大阪ガス関係とくにLNGについては土井正裕、食賀野武利両取締役がクリーンエネルギーの供給に努力している。大阪の空をきれいにした大阪市環境局の中野道雄君。ビワ湖汚染に対する貴重な意見を吐露された洗剤の花王石鹸の



田中新二君 (取締役)。

代替エネルギーのトップ、原子力のスリーマイル島の事故以来、多くの批判がよせられているのに京大教授筒井天寿君が熊取町の原子炉の廃棄物処理の専門家として苦労している。かかった所では田中康弘君がノンキャリア組ではじめて新幹



夫君、森本商の森本金吾君(写真左上)、海外ブームで盛業をつづけている富士海外旅行の松添壮君(写真右上)、全く枚挙にいとまがない。IMFの理事としてニューヨークに滞在している平尾照夫君、大阪法務局長の藤野岩雄君(写真中央)、岡本麟太郎君は文部省体育



官で青少年の健康管理に活躍。年一回の会報で各人の動静がわかり56期は団結しています。同窓会の運営は眼科のエキスパート湖崎弘君(写真左下)、阪急産業の細見弘君、福細産業の福細、伊東両君、そして松添壮君。彼らの尽力がなければ56期会は成功しないだろう。いつも心から感謝している。(56期理事 緒方正名)



(写真右下)

復活第1回天中戦の思い出

白小路良郎 (61期)

「日蓮拍子ノ」「それ」のかけ声と共に、湧き上る全校生徒の手拍子。リーダーの本内応援団長の姿が、兵器庫屋上に乱舞する。万雷の手拍子を横にききながら、ラグビー部の面々は、八橋先輩のコーチの下に、来るべき復活第一戦の対天中ラグビー定期戦に備えて、昼食時間を練習に励んでいた。時は昭和20年12月、敗戦の虚脱感をはねとばし、青春のエネルギーを六枚魂の蘇生、伝統の復活、継承と云う大目標に注ぎつつ、全校あげて取り組んでいたのである。

F.W	1	大岩 重雄 (4年生)
	2	田中 昭 (4)
	3	木村 肇 (4)
	4	日高 成 (4)
	5	中村 勇一 (4)
	6	比山 誠一 (4)
	7	松本 幸司 (4)
	8	石外 昭 (4)
H.B	9	今永 恭四郎 (4)
	10	石田 征男 (4)
T.B	11	大塚 卓夫 (3)
	12	高上 祐輔 (4)
	13	堀 秀康 (4)
	14	下平 嘉昭 (3)
F.B	15	野原 英雄 (4)

校技とも云われ、ラグビーの強い年は、進学率もよいと、聞かされていた私には、実際に北野に入学した昭和18年には、戦争下の圧制で、ラグビーは、闘球と改称され、軽視される風潮にあったため、僅か柔道部の練習が終ってから、柔道場で柔道着を術円形のボールに形造り、当時4年生の築山、西脇、3年の堀美、2年の松本、田中、土井各先輩等の指導で、ラグビーの真似事をする位であった。

昭和20年、幼年学校から復員した当時の虚脱感、到底筆舌に尽せるものではなかったが幸いして、名和、井上(恭)

先輩等の怖いラグビー部にすんなり入部してしまい、当時の石外主持、比山(誠)副将をはじめとする多士多様な先輩の指導影響を受けて、北中卒業と胸を張り大声をあげて自分を表現できる誇りを持つことが出来たのは、私の人生の最大の幸せであると、心から歎んでいる。

実際、当時の欠乏時代、満足な練習用具はなく、V首のアンダーシャツに、半パンツ素足と云うのが、一般的な練習のスタイルであった。特に天中戦の前は、八橋先輩の指示で満水のバケツがグラウンドに用意され、全校応援の練習に呼応するべく、倒れた部員にそれをぶっかける用意がされていた。

全校の応援の熱と力もさることながら、ラグビー部の諸先輩の影の力は、到底死んでも忘れることが出来ない。

多くの先輩たちに支えられて、伝統の定期戦が西宮原頭で挙行され、0-3で惜敗したが、この困窮の敗戦第1年目の12月に、OB全校生徒あげて行なわれたこの定期戦の意義は、戦后北野高校の伝統にも引き継がれ、再認識を必要とする程、特筆すべきものであったと思う。同窓生諸兄、わがはくは、勝っても涙、負けても哭いた全校応援団とラグビー定期戦を、もう一度想い起していただきたい。

編集後記

*残暑の中、若いみずみずしい声と共に13号をおとどけしました。一服の涼風ともなれば幸せです。現役生徒の声をとりあげたのは最初の試みです。いかがでしたでしょうか。

*今回は寄稿が多く、編集子としてはうれしい悲鳴をあげました。それで各稿に大胆に鉄を入れ、写真・広告を少くしました。がどうにもなりません。お叱りを覚悟で24頁としました。「座談会」が長いようですが、片断に縮めたものです。各稿の内容に飛躍があれば鉄のせいです。ご寛恕下さい。(講稿)